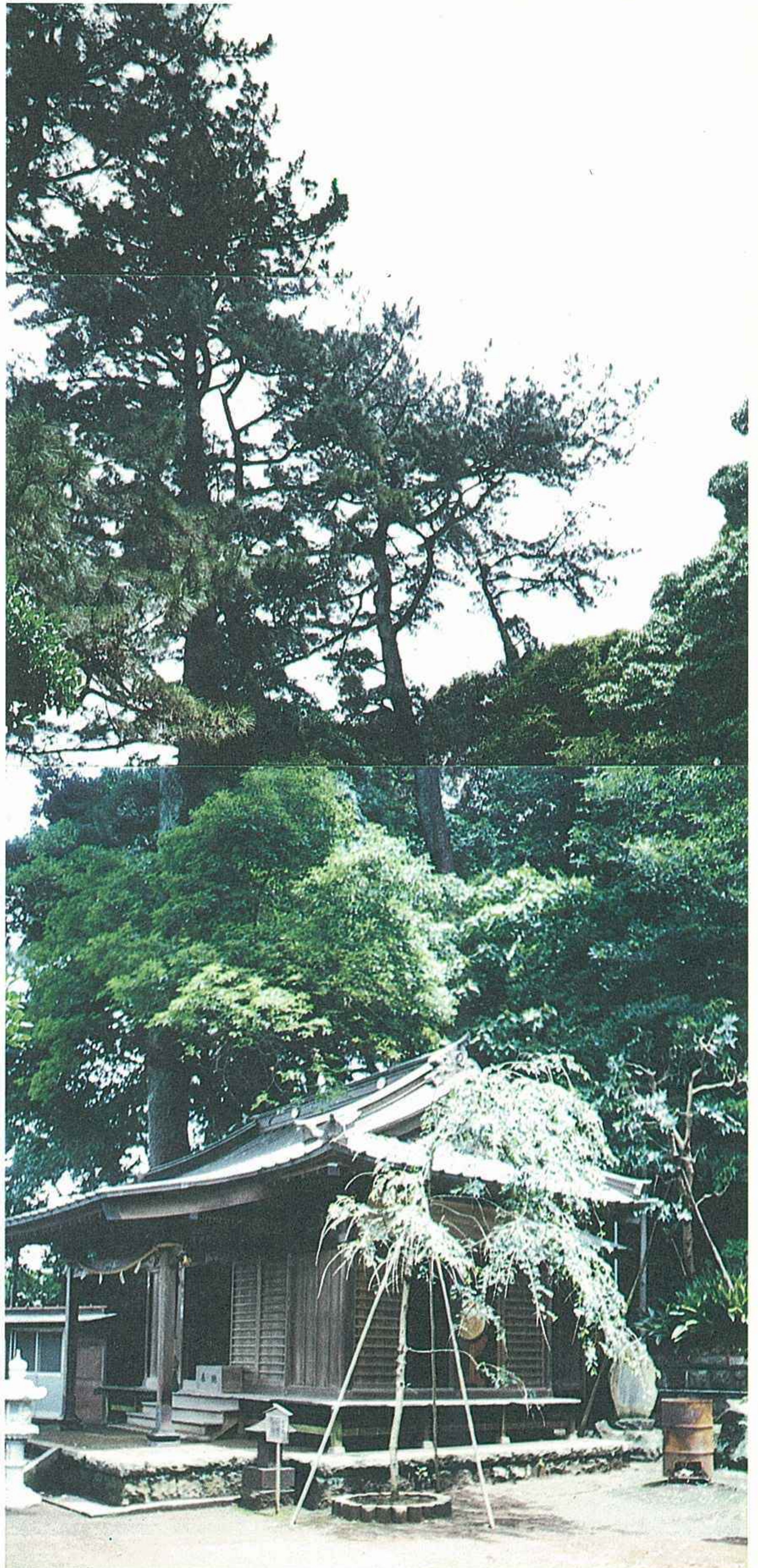




## 4. 調 和

建築は青い海と輝く緑の自然に調和し  
かつ町全体と調和しなければならぬ。

## ○舞い降りる屋根

建物の棟が端にいくほど低くなり、それにしたがって屋根も段階的にならない限り、構造的に健全な建物にならないであろう。



●通気口の屋根、大屋根、ゲヤで構成される民家の「舞い降りる屋根」。背後の樹木と織り成して大きく大地に舞い降りる屋根を形成している。



●用途に分けて大小様々な屋根を設け、「舞い降りる屋根」を構成している出雲大社。森をバックに、神々しく神が降りてきそうである。

建物の最も重要な部分に最も大きく、高く、幅の広い屋根を架けること。

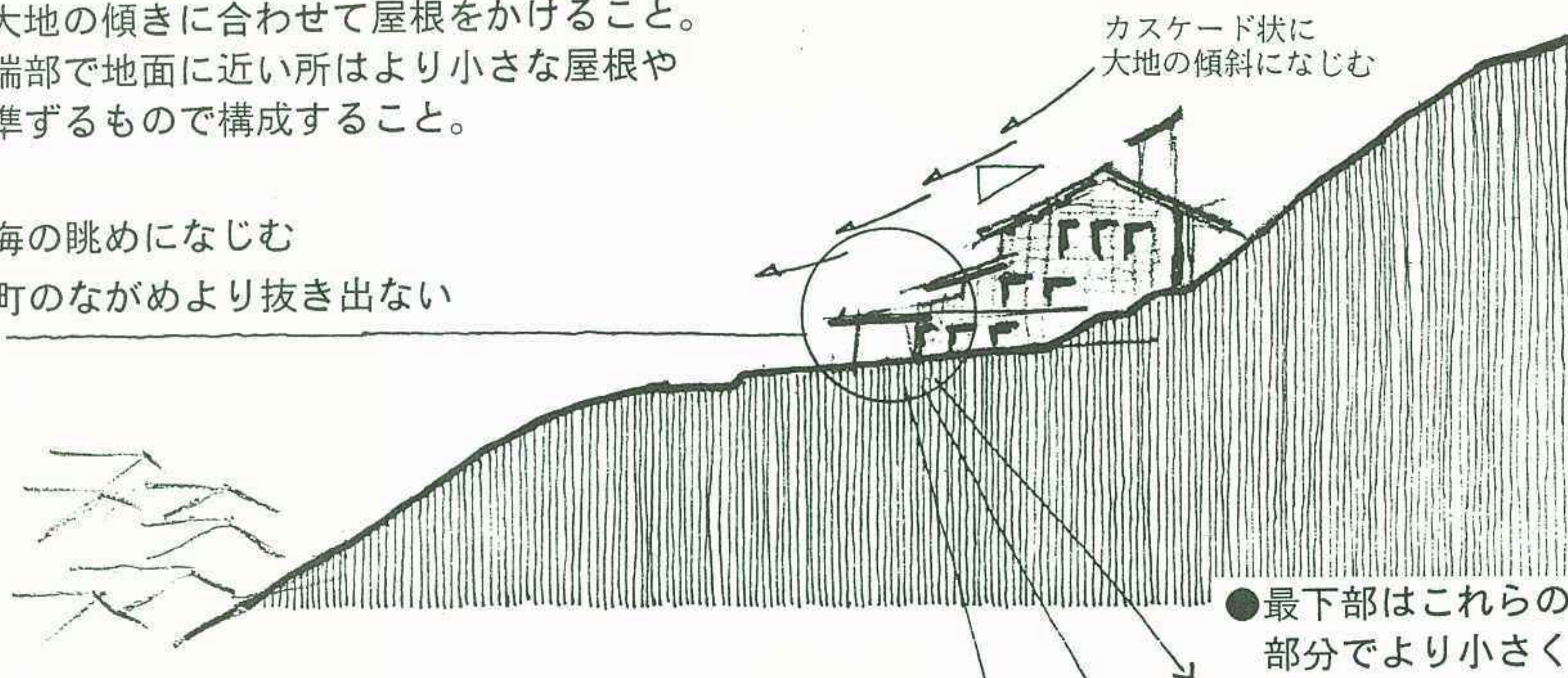
屋根の細部を割り付ける場合はこの大屋根からすべての子屋根を段階的に張り出せばよい。

また大地の傾斜、空の大きさ、海の眺めなど自然との一体感には特別の留意を図ること。

- 大地の傾きに合わせて屋根をかけること。  
端部で地面に近い所はより小さな屋根や準ずるもので構成すること。

- 海の眺めになじむ

- 町のながめより抜き出ない



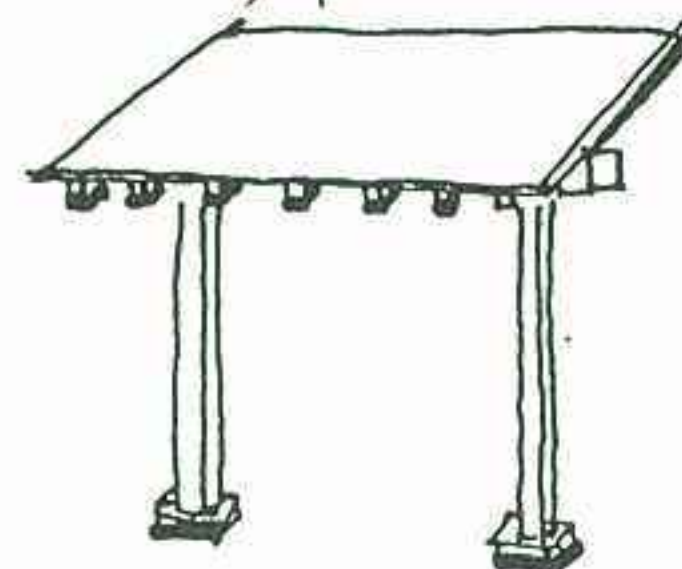
カスケード状に  
大地の傾斜になじむ

- 最下部はこれらの部分でより小さく

・キリヨケ



・ゲヤ



・玄関



このように  
最端部はで  
きるだけ低  
くおさえる



## ○守りの屋根

屋根は、私たちの生活において最も根源的な役割を果たす。最も原始的な建物は屋根そのものである。  
屋根が隠されていたり、建物の周囲から屋根の存在が感じられなかったり、あるいはまったく屋根がないとすれば、基本的なシェルター感覚は失われることになる。



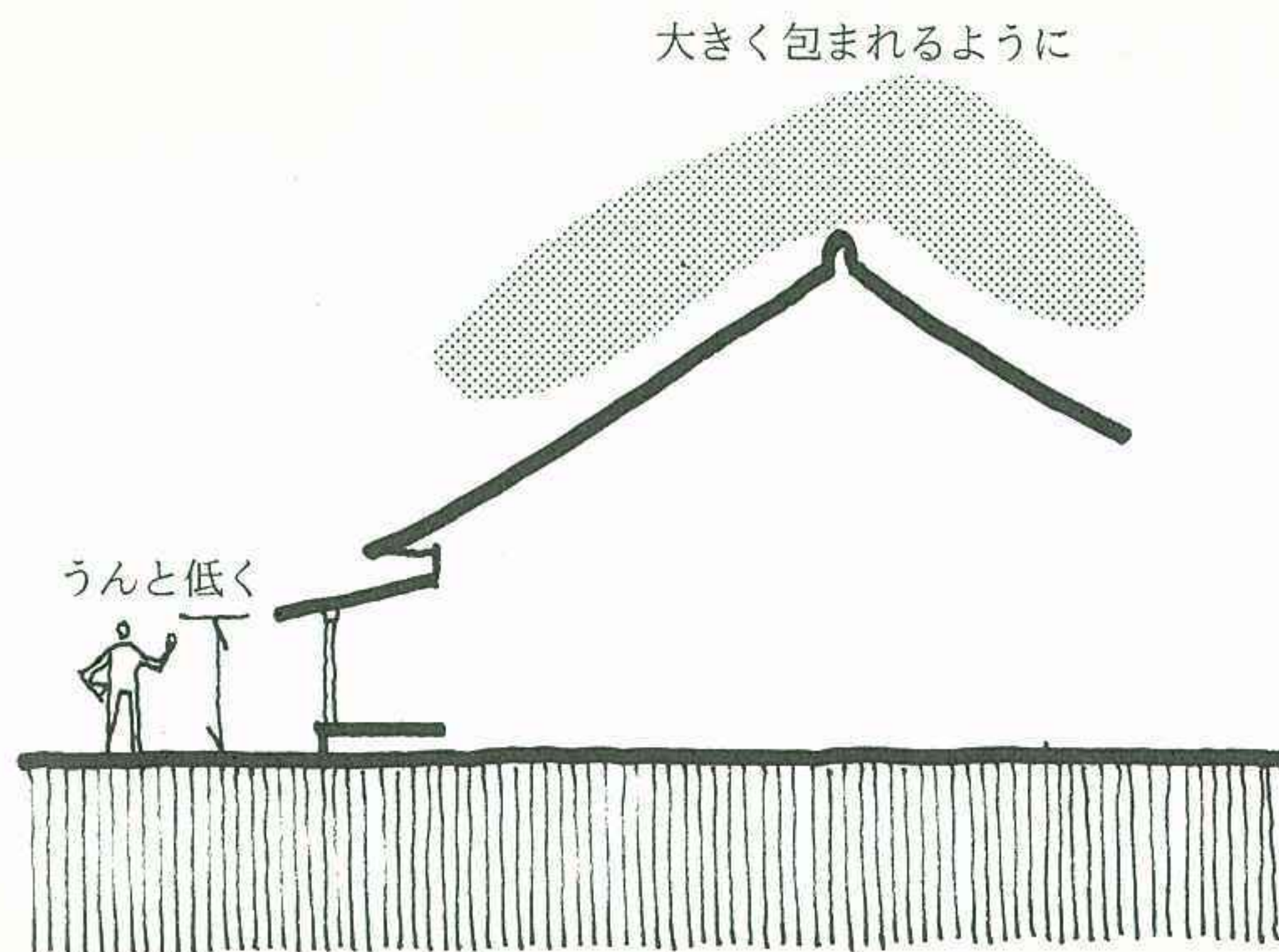
●茅で葺かれた見事な守りの屋根が真鶴町には残っている



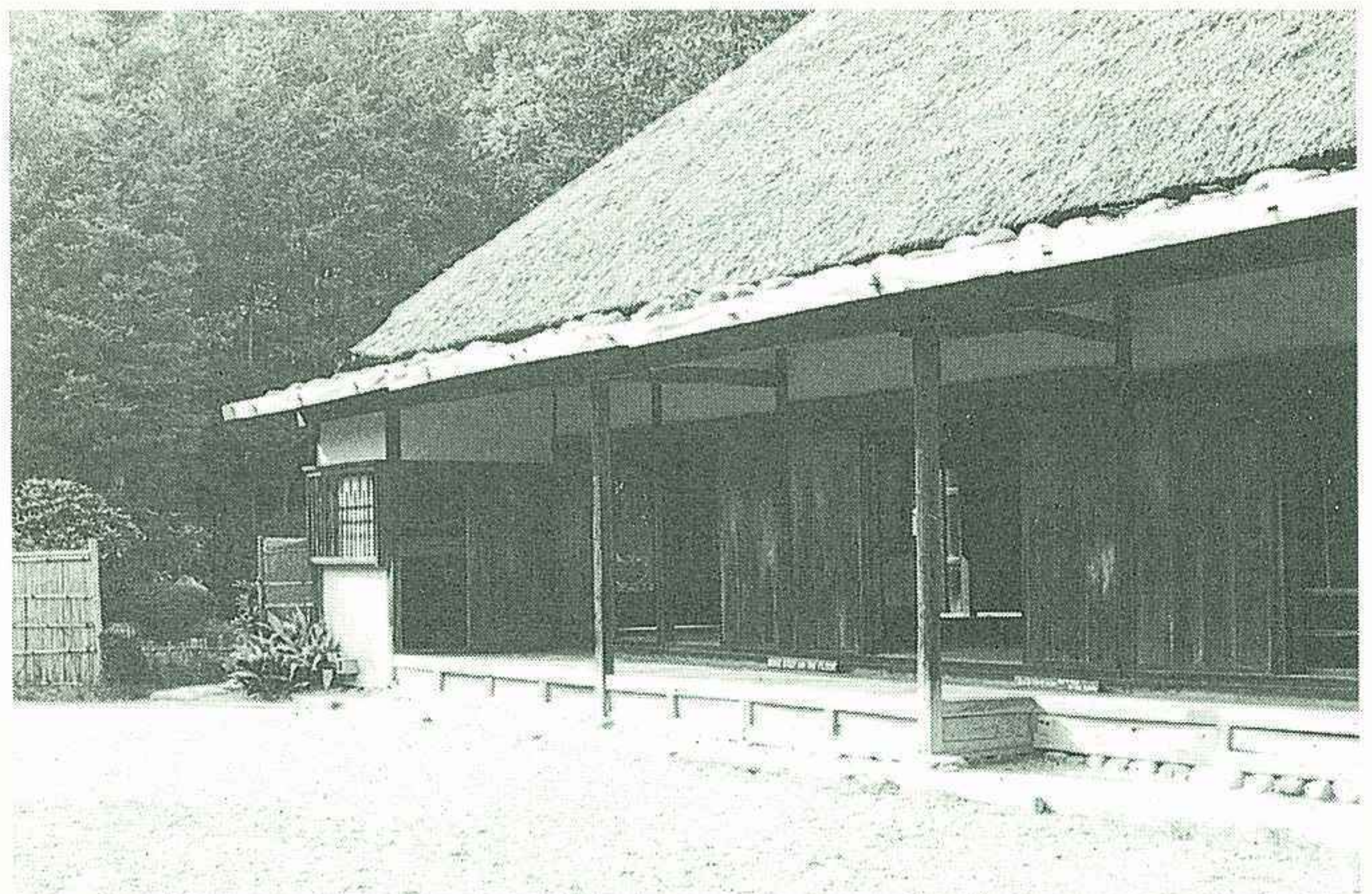
●瓦で作られた守りの屋根、行き交うものに安堵感を与える

屋根は大地のかたむきにそった傾斜をつけること。  
 屋根全体が見えるようにし、各棟の最上階は、ただ屋根を架けるだけでなく、実際に包み込まれるように造ること。  
 材料に留意すること。

●包まれるように

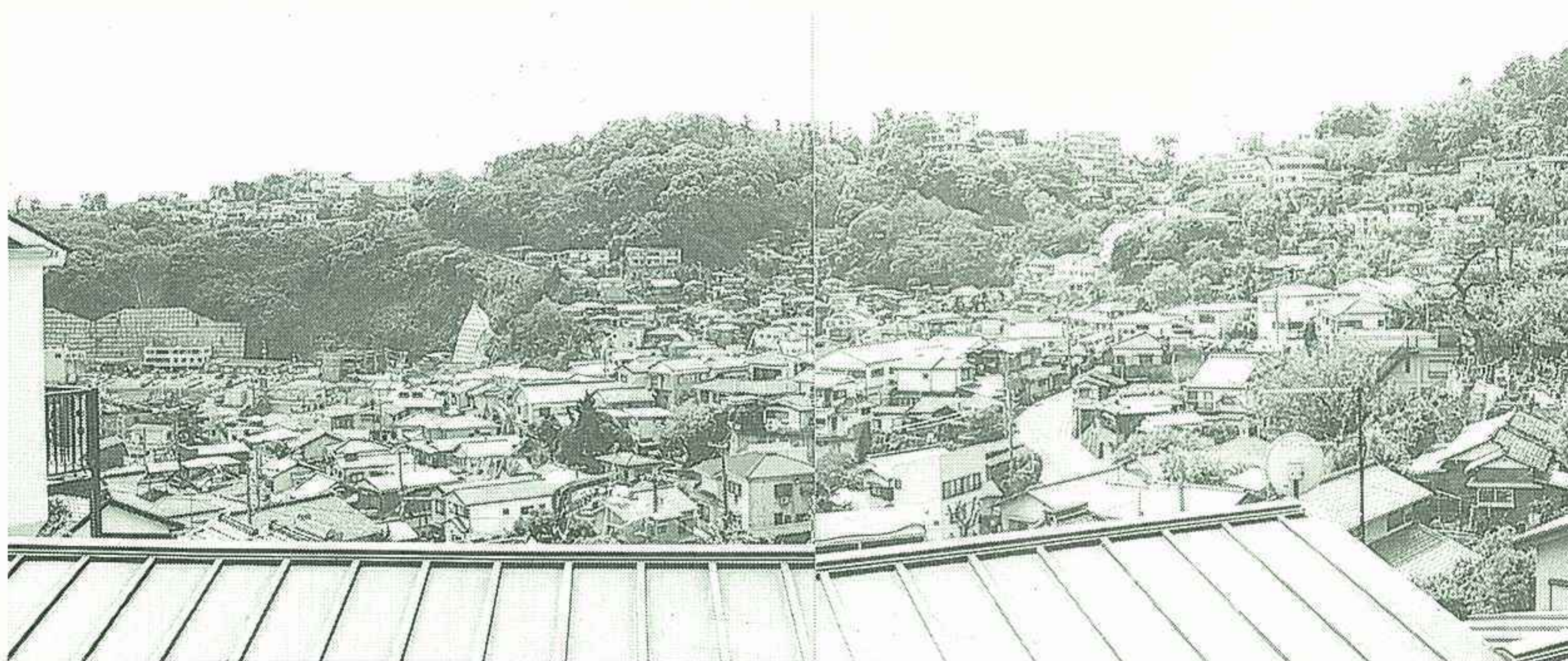


●充分低い軒先



| キーワード       | 前提条件                                                                                              |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○覆う緑</p> | <p>真鶴町の眺めは鳥瞰的要素を持っている。<br/>緑の中に溶け込む自然材料の屋根は美しい。陸屋根の場合も、上部を庭として利用し、自然の緑を増やせばさらに美しい眺めになるのではないか？</p> |

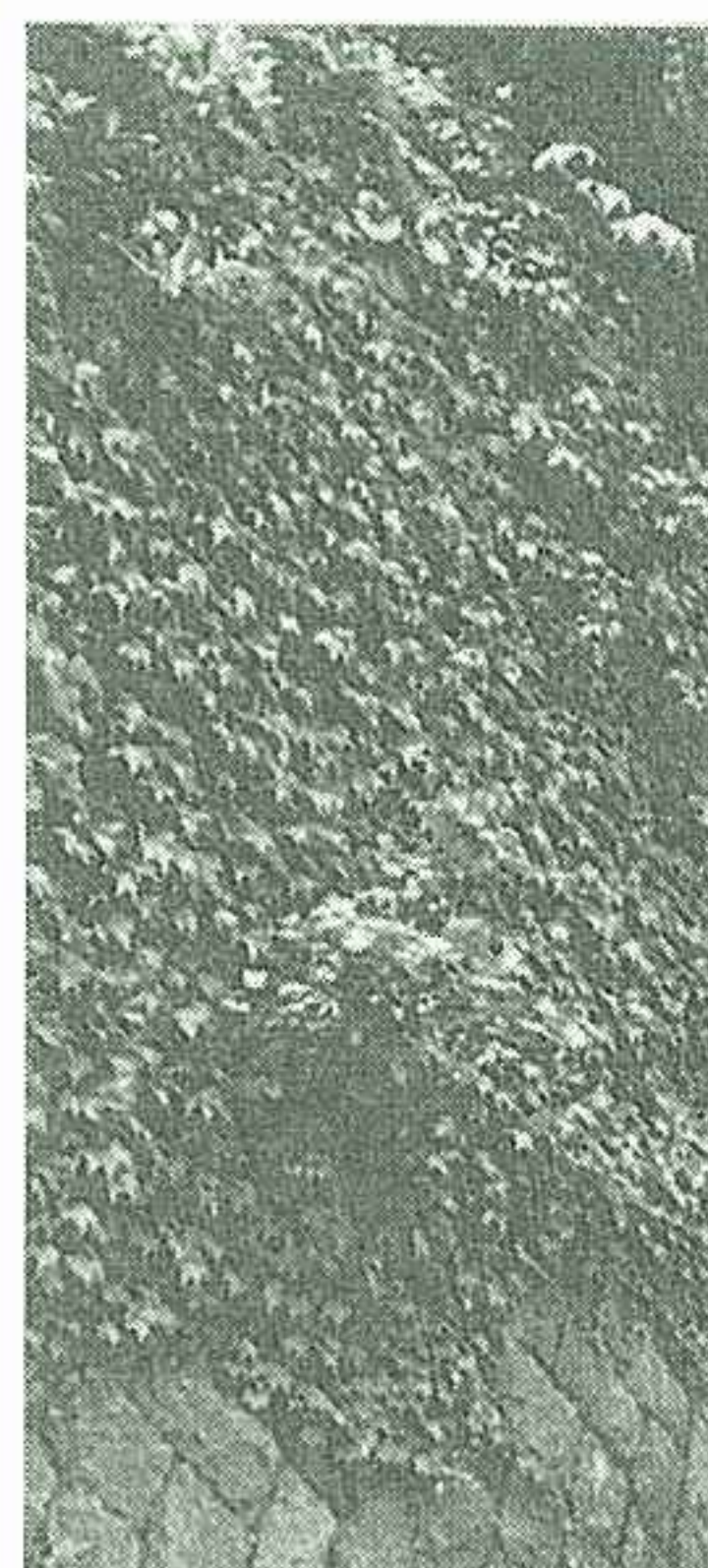
- どこにでもある鳥瞰アングル、陸屋根をもつ建物は屋上の緑が欲しい



- 真鶴町の既成住宅地、民家の間に緑が点在する

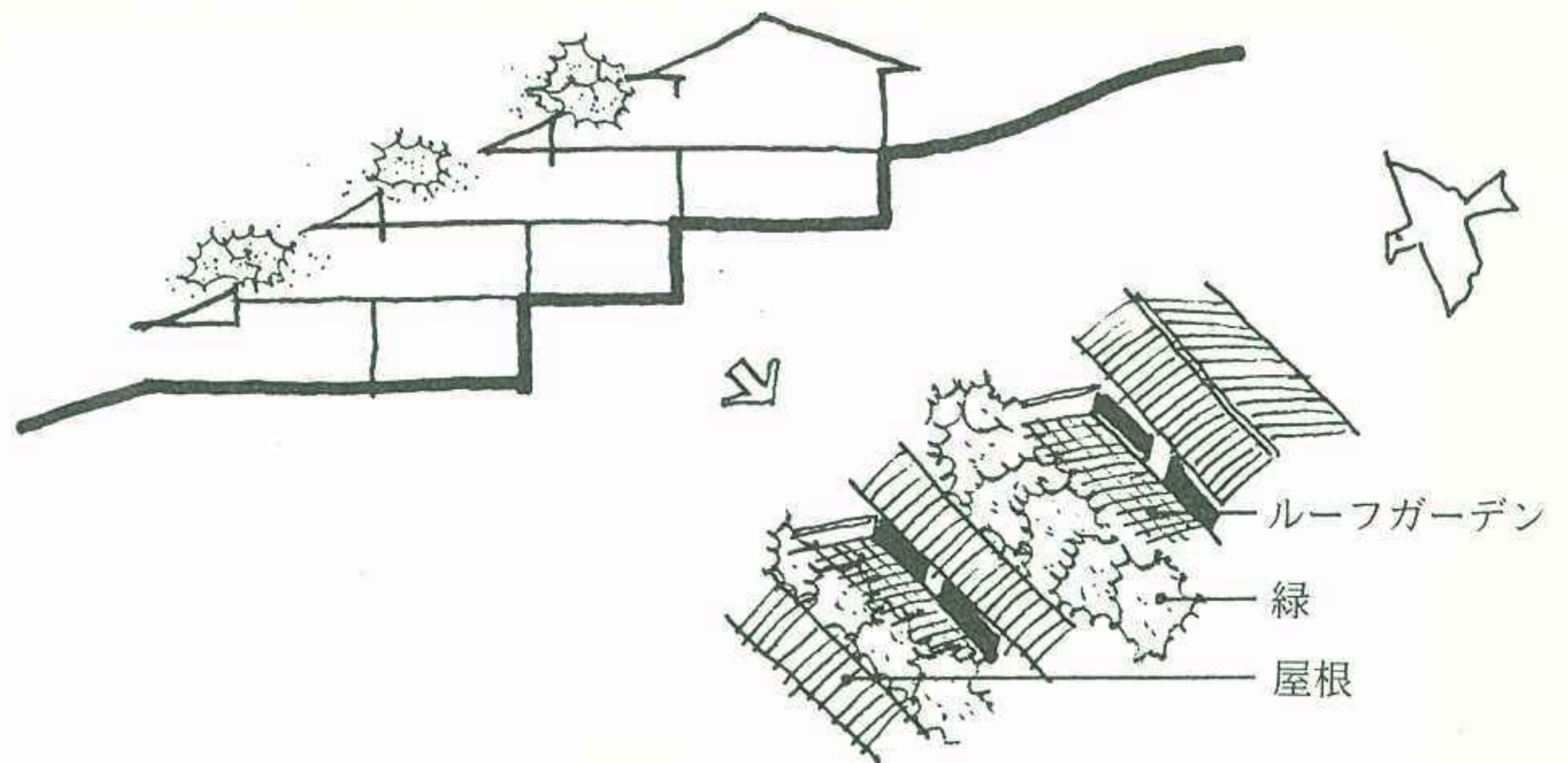
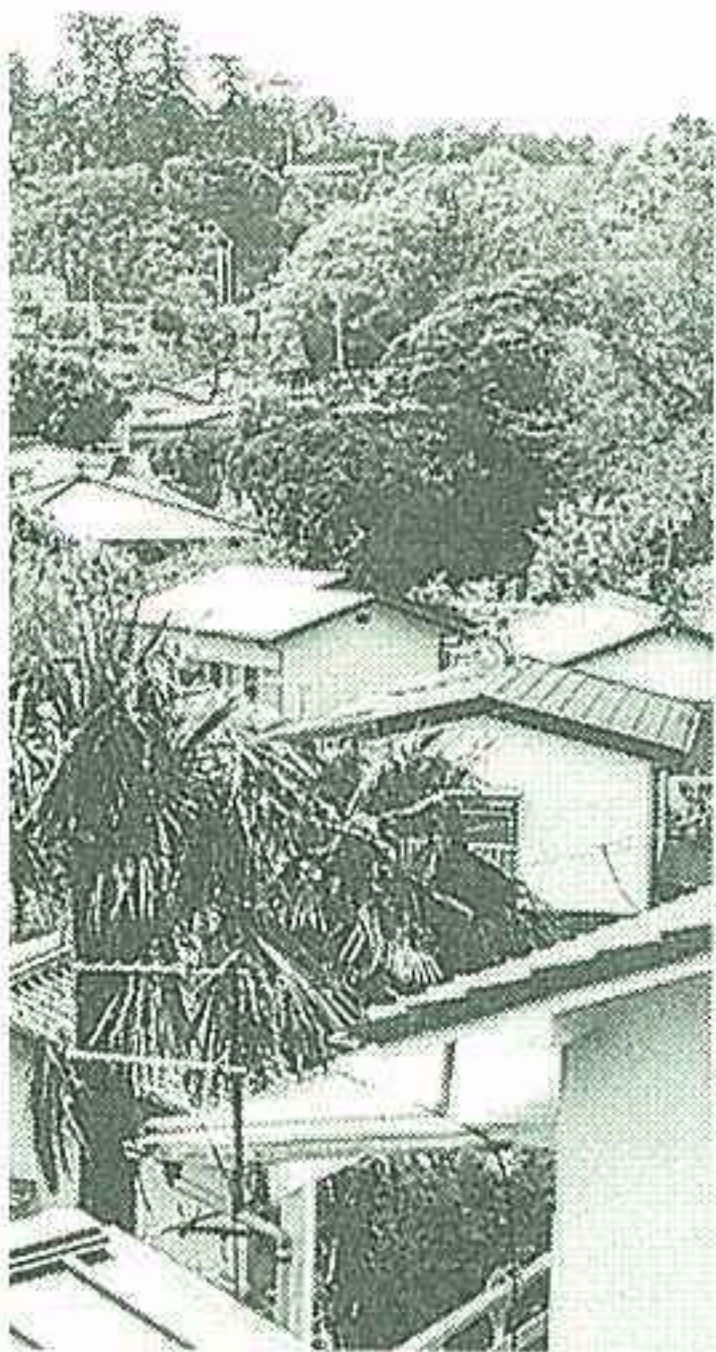


- 建物自体を覆う緑

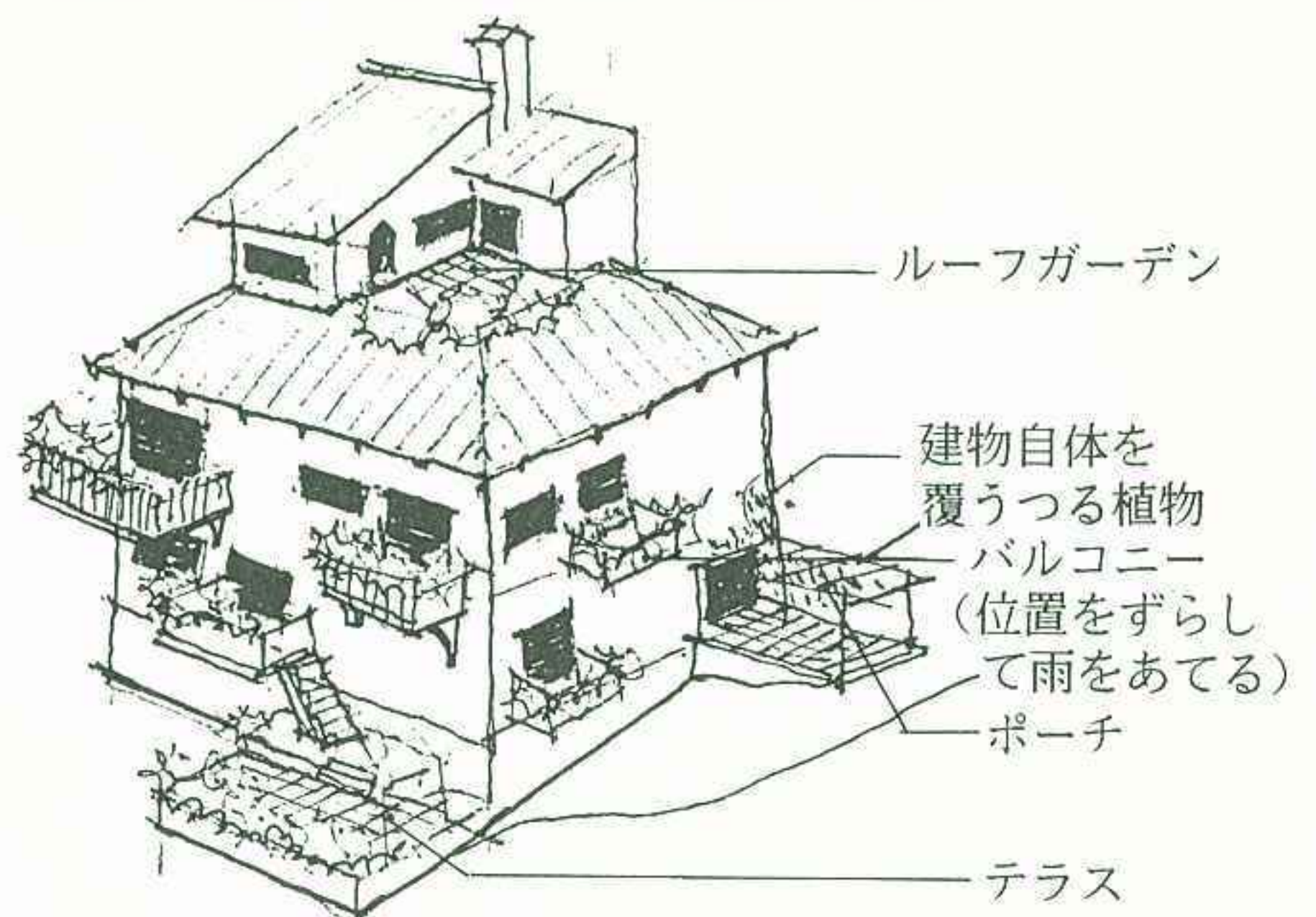


屋根の一部を解放して屋上庭とすること。  
段状の建築物の場合はルーフガーデンに、そうでない場合も十分に大きなバルコニーなどをつくり緑の植栽をほどこすこと。

- 屋根とルーフガーデン、ルーフガーデンを緑で修景すれば、鳥瞰的に緑の中の小さい建築物となる

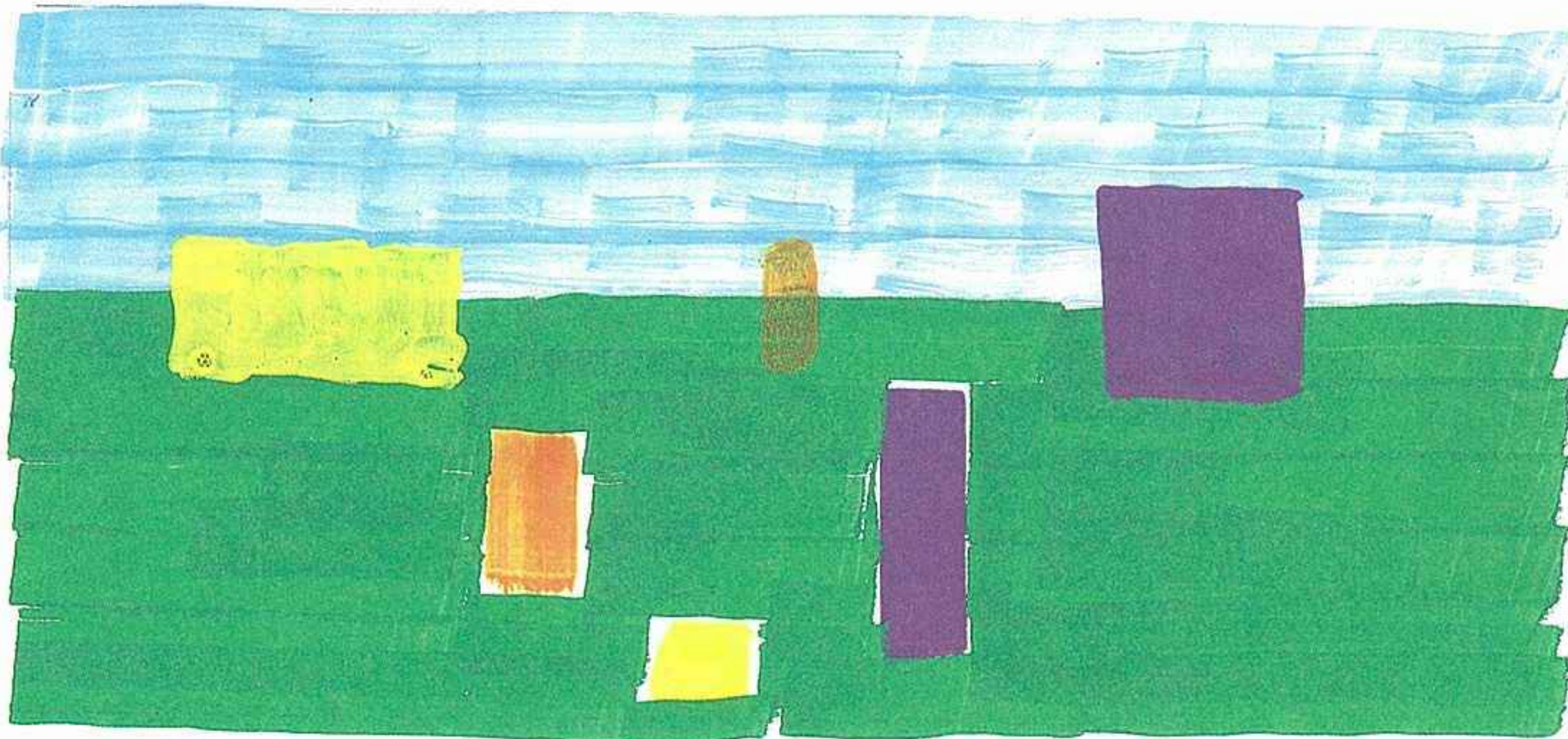


- バルコニー、テラス、ポーチ等も工夫次第で様々に緑で覆うことが可能である



| キーワード          | 前提条件                                                                                                                                                                          |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○ふさわしい色</p> | <p>それぞれの町には、ふさわしい色が存在する。<br/>         例えば、地中海の町では白い建築物が、石灰質の大地の岩肌にマッチしてその存在をアピールしている。<br/>         真鶴町は海の青さと森の緑が最もふさわしい色である。<br/>         建築がこれらの色に溶け込むためには、どんな配慮が必要だろうか。</p> |

- みどりや青の中に、大きなオレンジ、黄、ムラサキが調和しますか？



- ベースカラー＋ポイントが美しい

・ベースカラーグレイ＋α



| 解 決 法                                                                                                                    | 課 題 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| <p>建築物の基本的配色は落ち着いた暖かい色とすること。<br/>         素材の色を生かし、自然光、反射光が柔らかいイメージを織り成すように配色すること。<br/>         建築物の配色計画をしっかりと立てること。</p> |     |

●社会に認知された色の科学分析を考慮する

●色相環、配色体系より考慮  
決定すべき色

PCCSの色相は右図のように12色相または24色相に区分される。

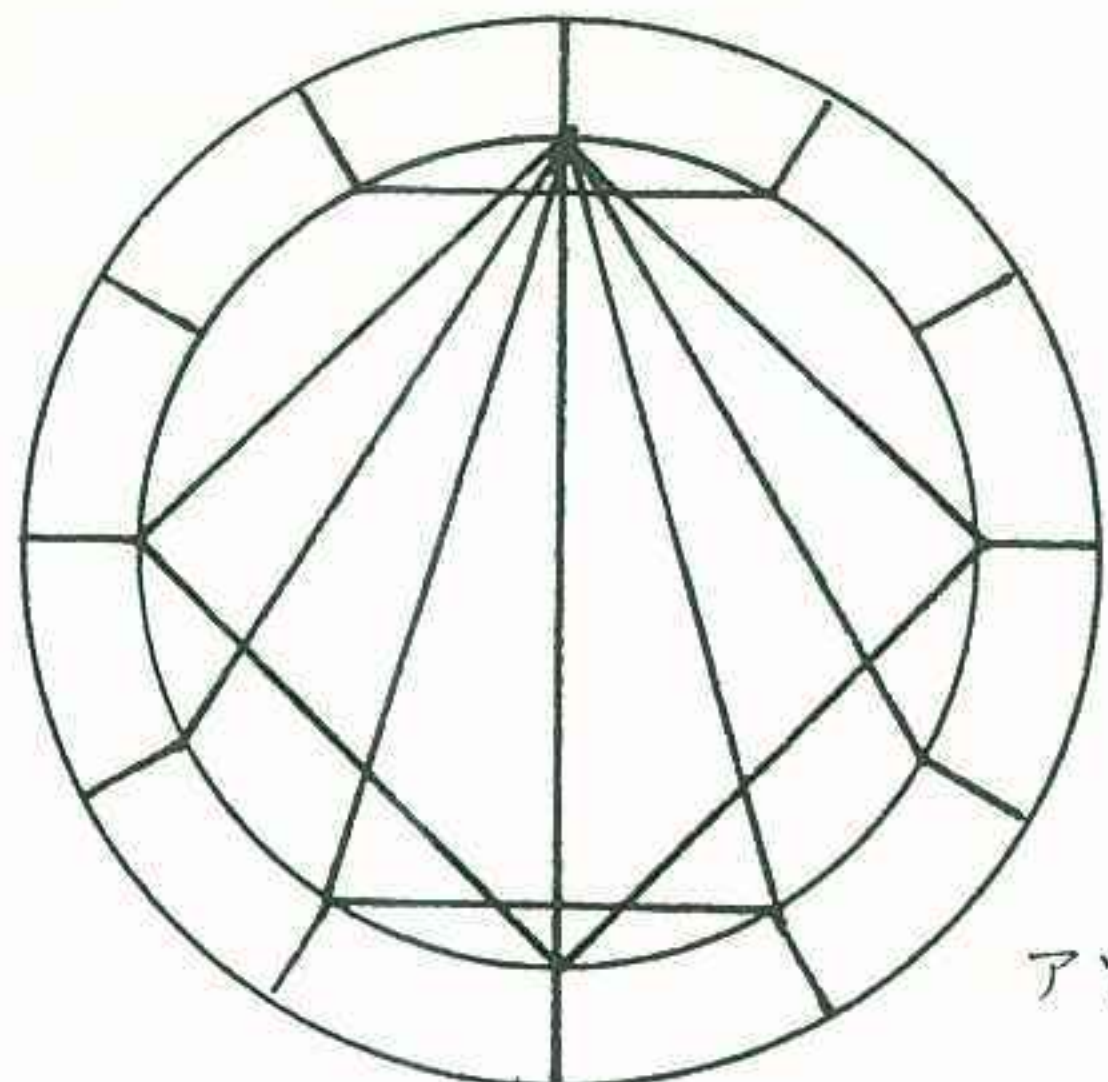
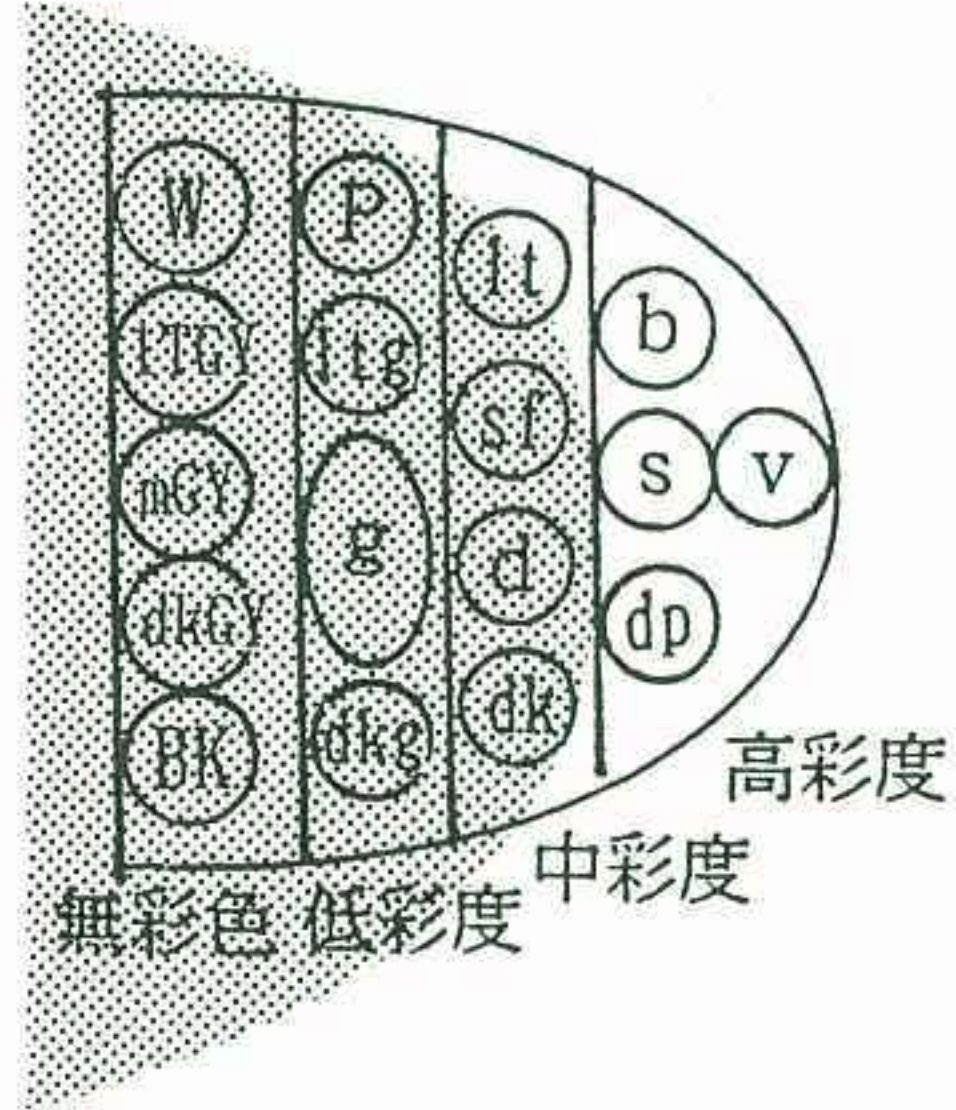
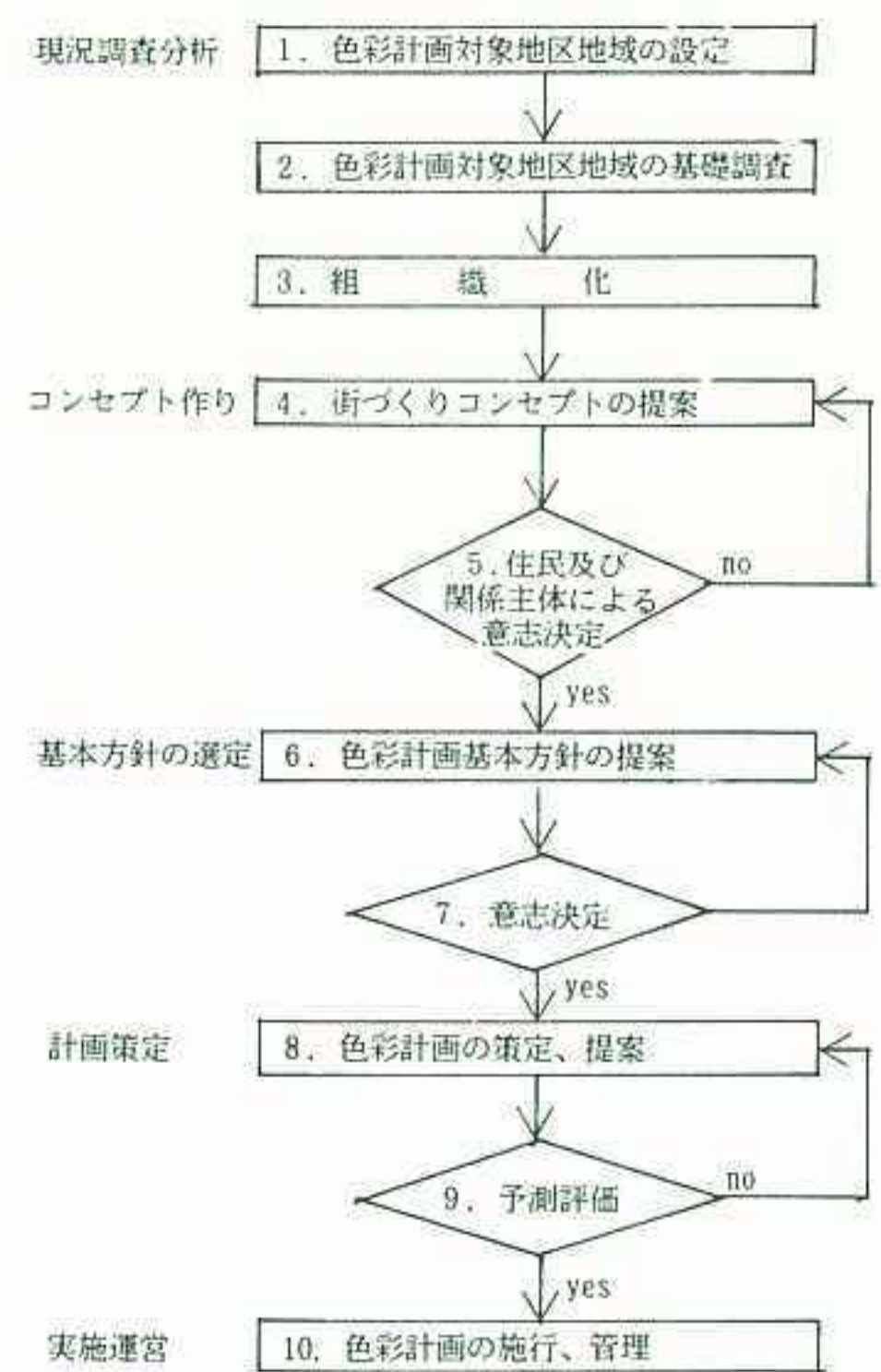


図4 PCCSのトーン区分図

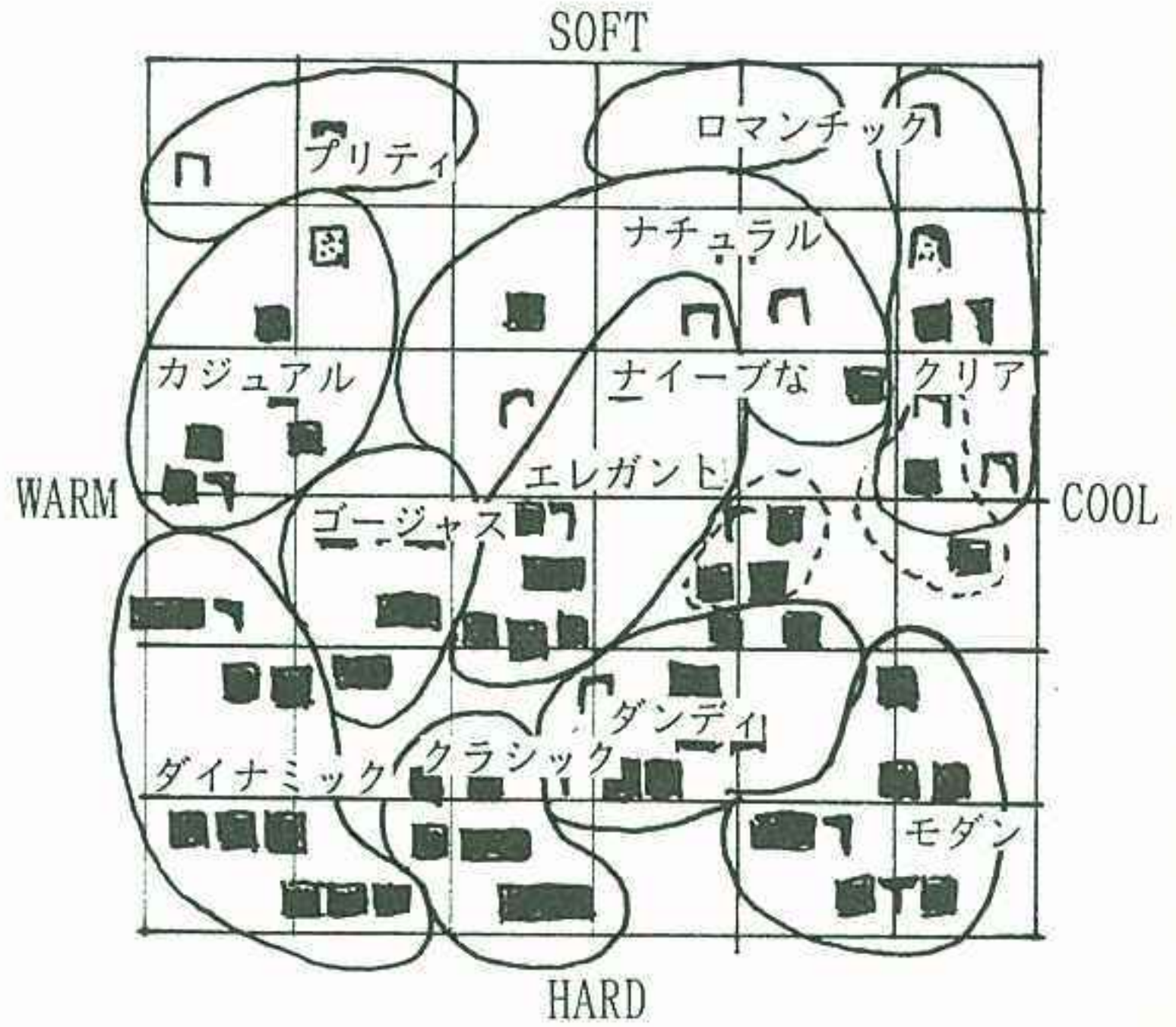


PCCSのトーン区分は左図のように、上下を明度に、左右を彩度にとる等、色相断面の上に設定される。

●色彩計画のモデルフロー



●配色チャートによる、しっかりとしたカラーイメージ作り



| キーワード        | 前提条件                                                                   |
|--------------|------------------------------------------------------------------------|
| <p>○青空階段</p> | <p>大きすぎる建物に直線的、無機的な屋外階段や全く外から見えない屋内階段は、道路に生まれる人間の生活と建物とを無関係にしてしまう。</p> |

●壁と外部階段が織り成す心地よい路地の階段

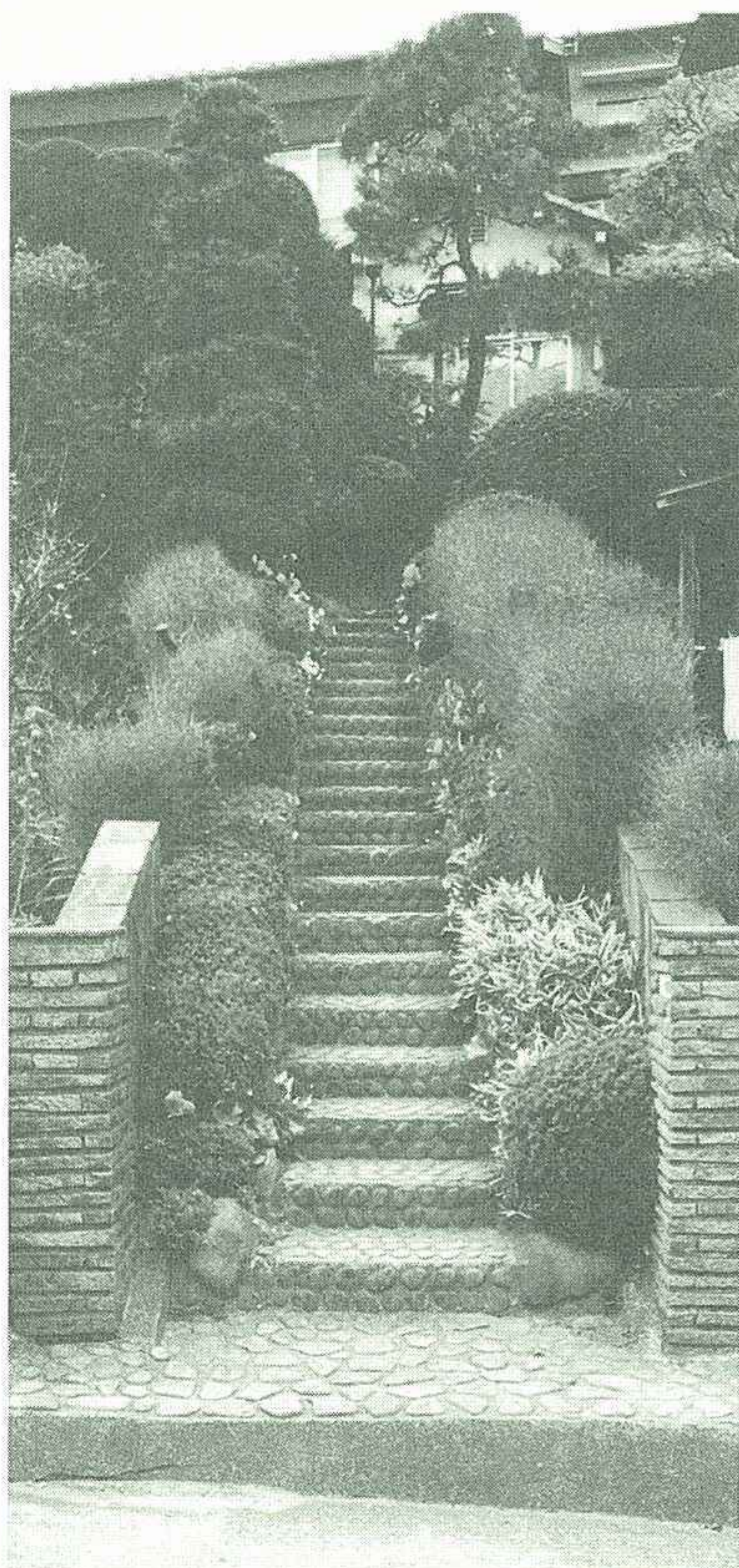


●青空階段は緑、鉢物の展示場



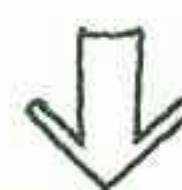
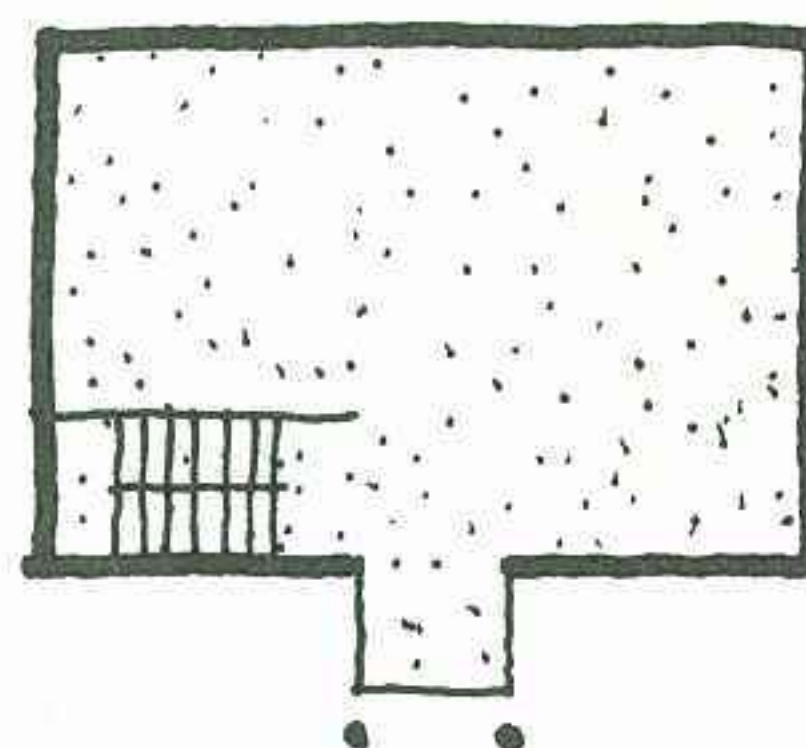
| 解 決 法                                                                                                 | 課 題 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| <p>できるだけ、屋内階段をさけること。建物の上階にある世帯、公益サービス、作業集団などを地上に直接つなげるために、街路からじかに接近できる青空階段を設けること。気候に応じて屋根をかけてもよい。</p> |     |

●美しい真鶴町の青空階段

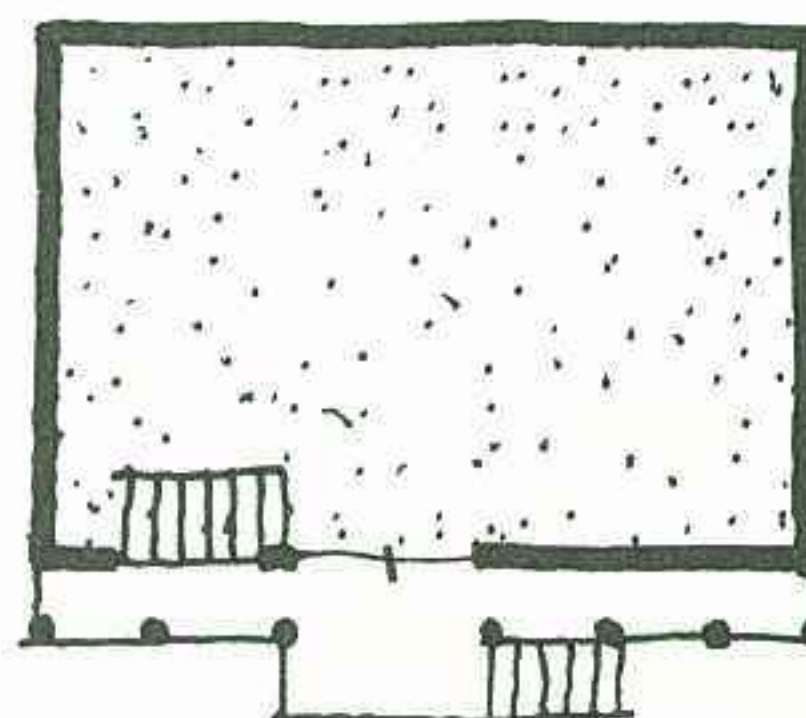


●この様にすれば……

- ・屋内階段のみ

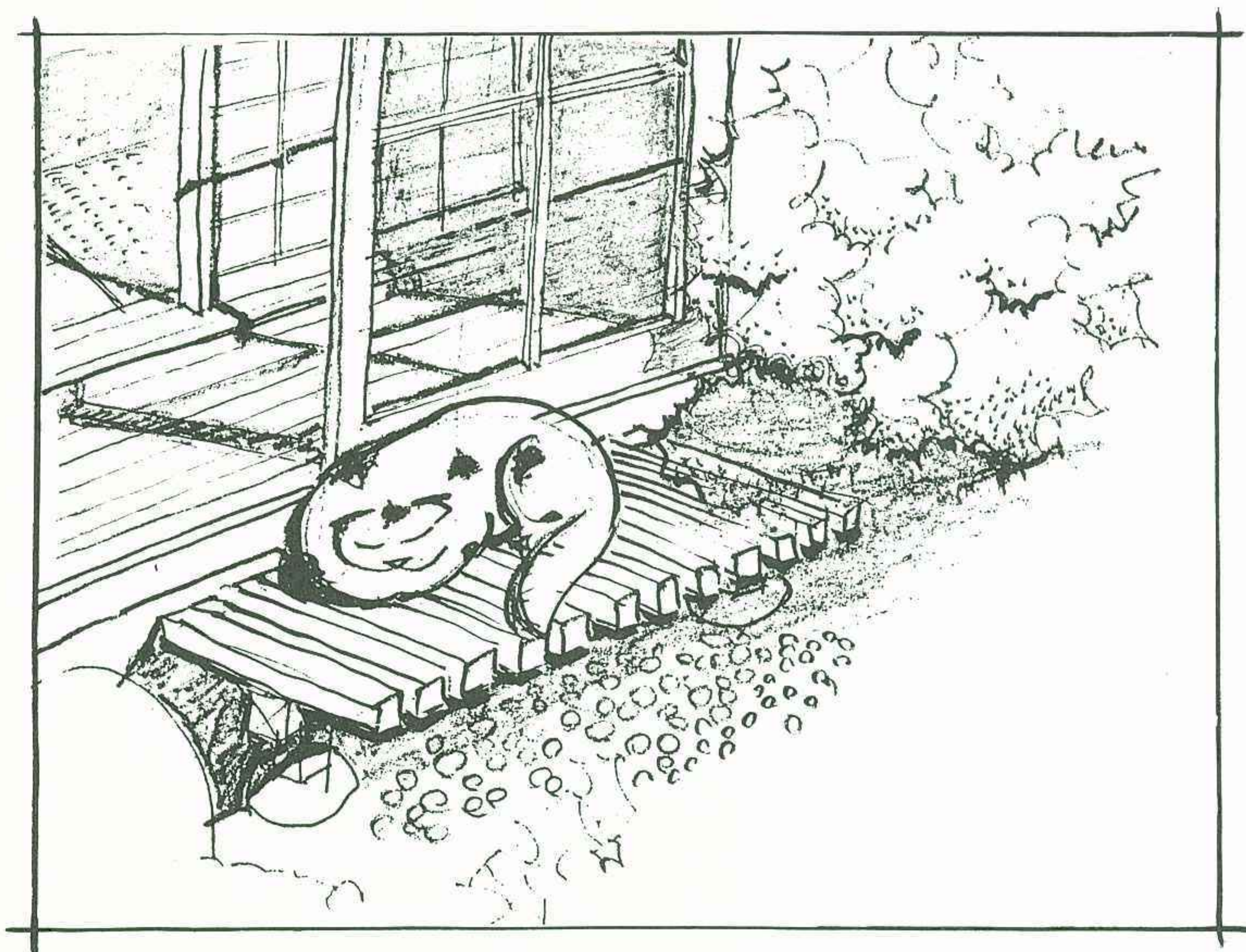


- ・開放された青空階段、外廊下、内部階段の組み合わせ



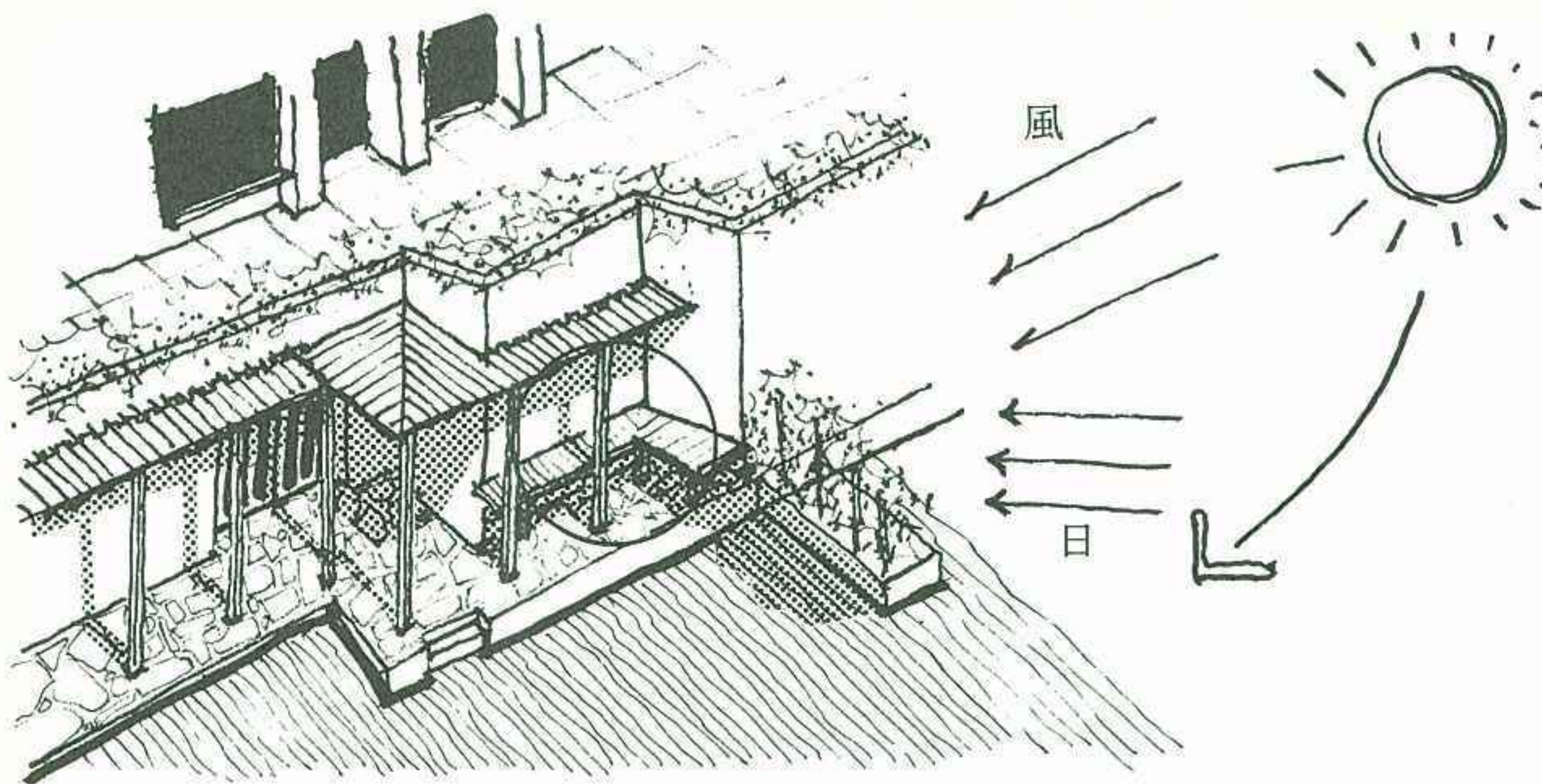
| キーワード        | 前提条件                                         |
|--------------|----------------------------------------------|
| <p>○日の恵み</p> | <p>建物の南面に接する部分は、日光浴のできるような場所に発展させねばならない。</p> |

- 猫は建物の一番良いところを選んで昼寝する

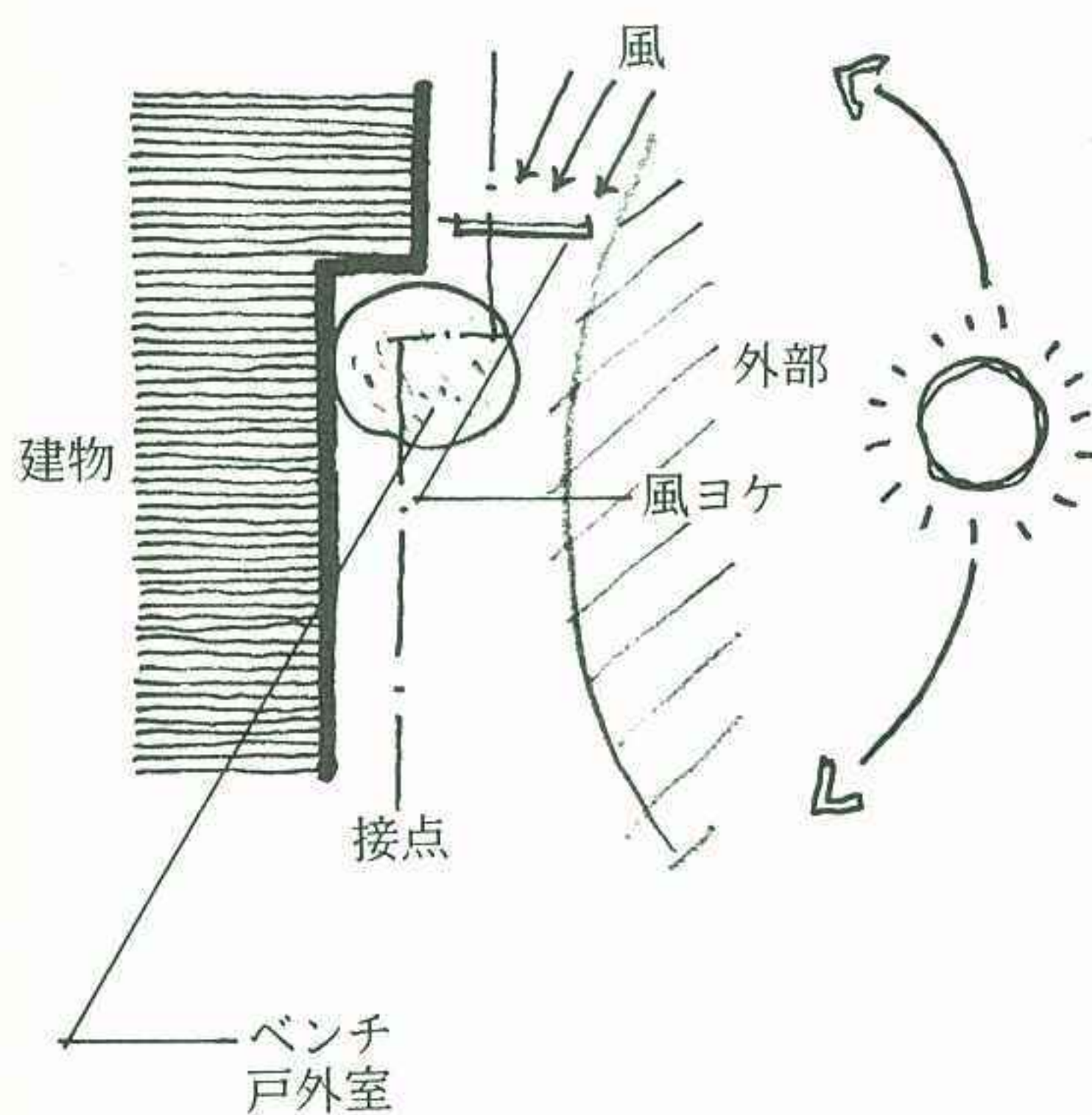


南向きの中庭や内庭、建物の線で、最良の日当たりが得られる建物と屋外との接点を見つけ、そこを特別な日のあたる場所として発展させること。そこを大事な戸外室に仕立て、太陽の下で働ける場所、日光浴をする場所などにすること。

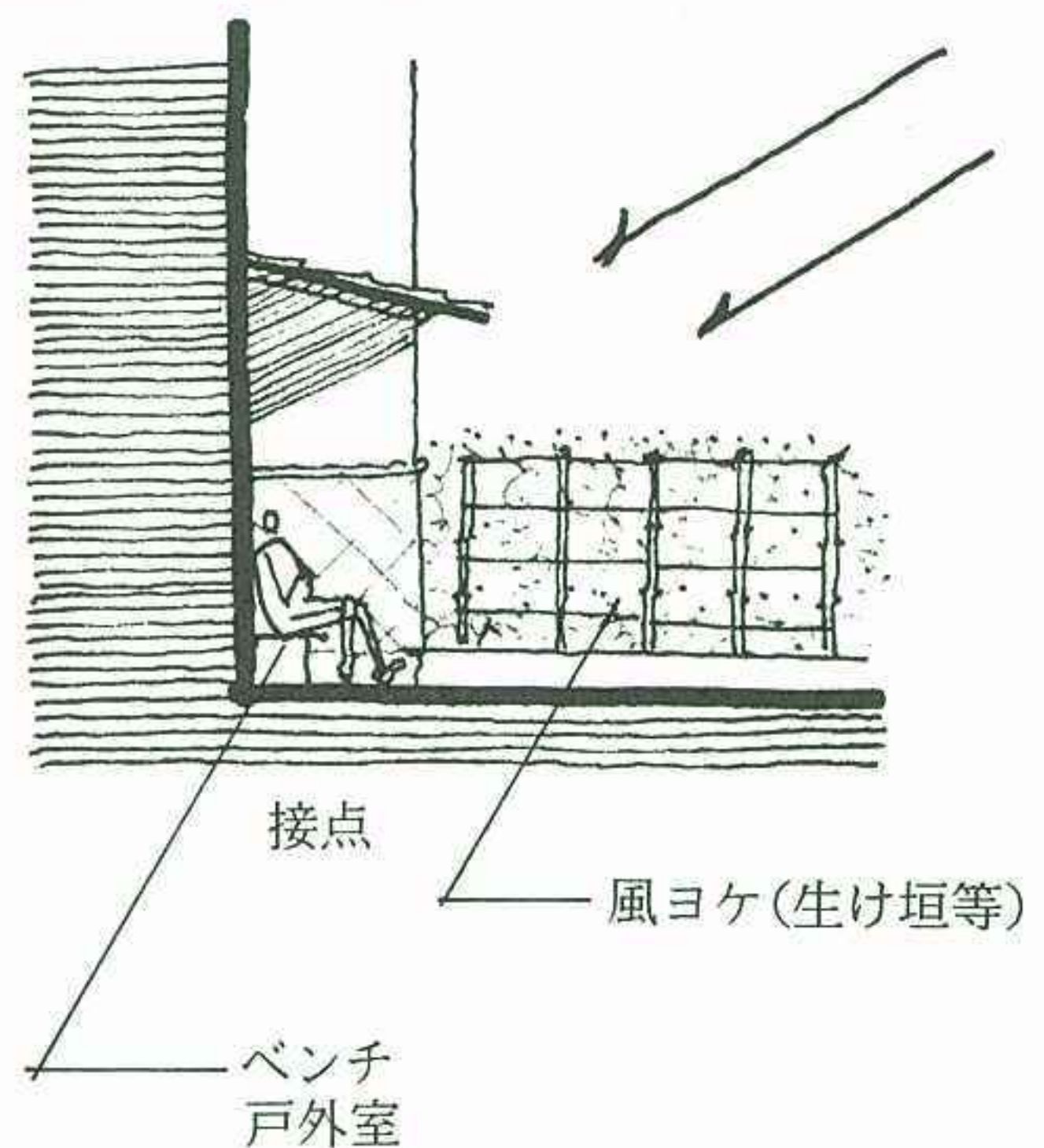
●回廊、日の回り込む場所に作ったベンチ



●日の恵みを一日中謳歌できる場所を選んで



●壁から輻射熱が受けられるように、風から守られるように

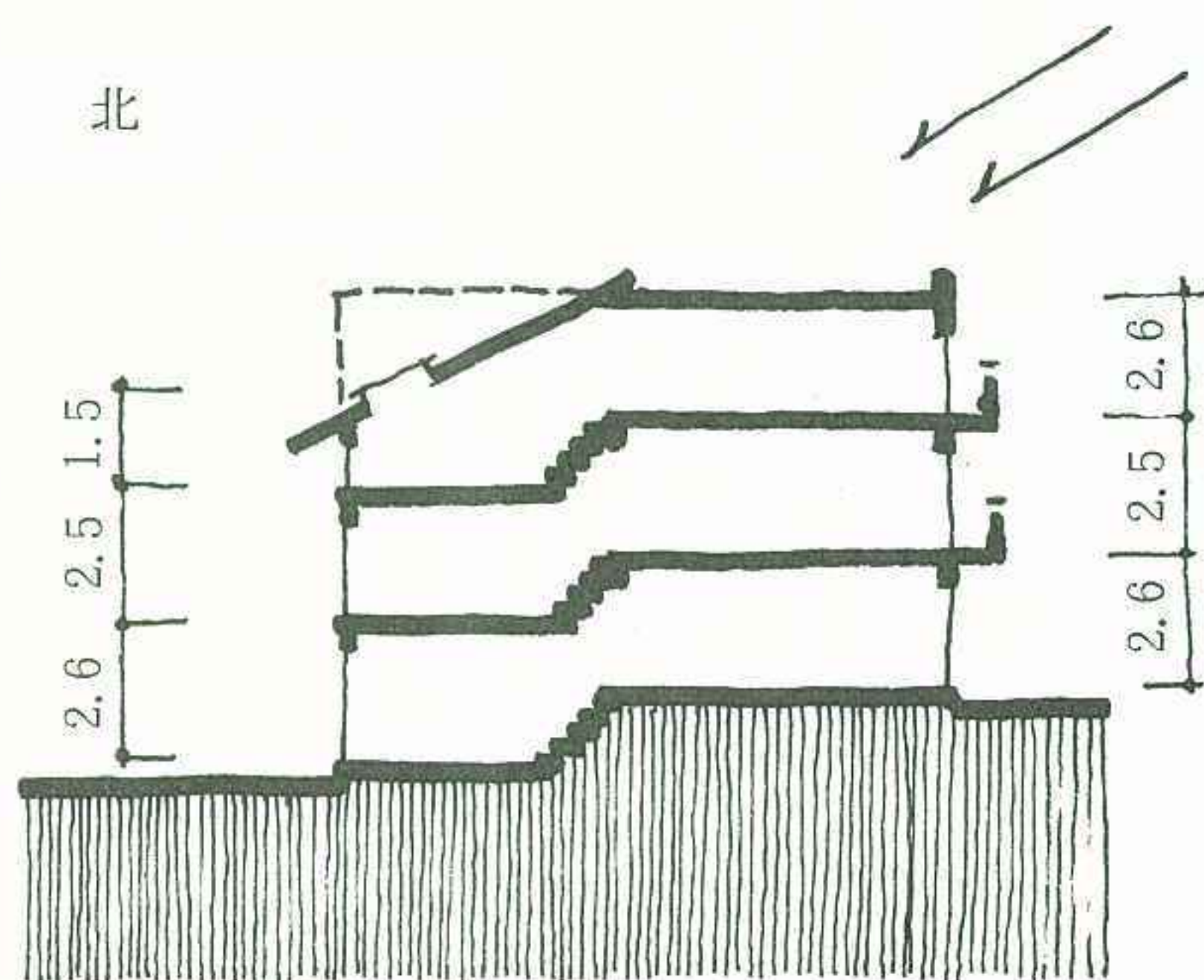


| キーワード      | 前提条件                                                         |
|------------|--------------------------------------------------------------|
| <p>○北側</p> | <p>日の当たらない建物の北側は暗く利用されにくい。<br/>また隣地に太陽の恵みを断ってしまうことは罪が多い。</p> |

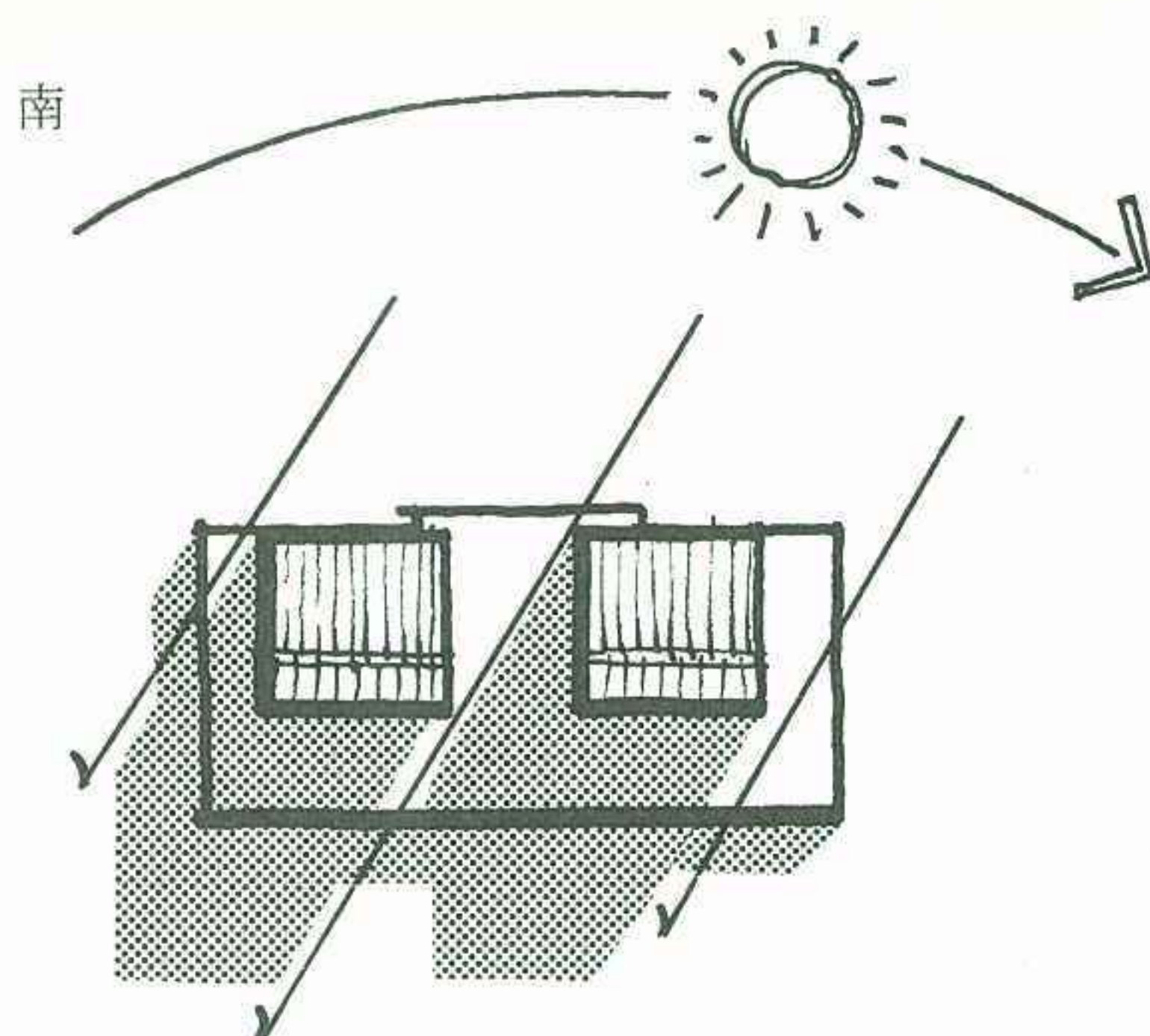
●北側 暗くて、淋しくて、



| 解 決 法                                                         | 課 題 |
|---------------------------------------------------------------|-----|
| <p>建物の北側頂部をなるべく低くおさえること。<br/>また平面的計画をよく考慮し、日が回り込む様計画すること。</p> |     |

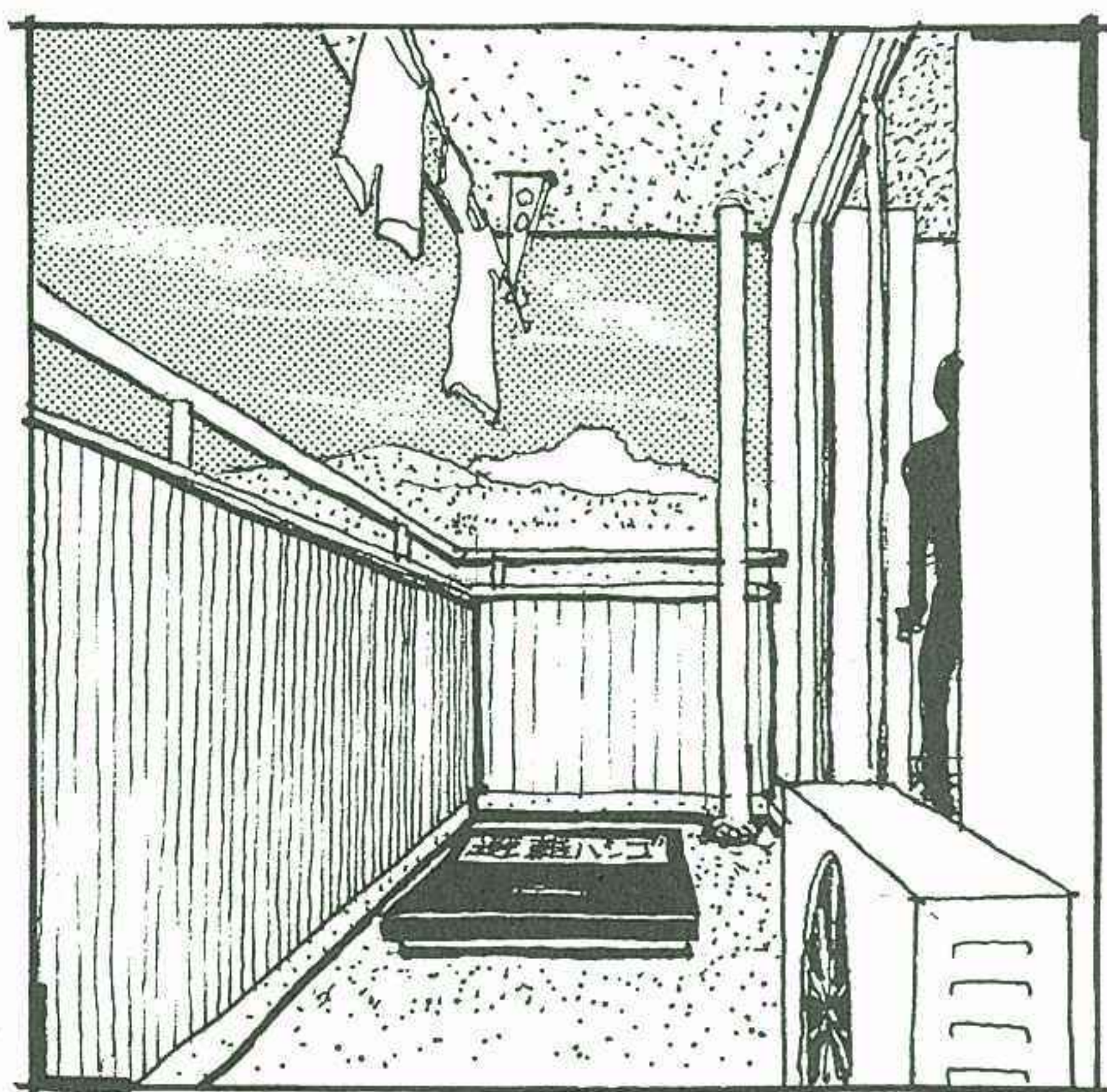


●北側の階高を低く押える工夫



●日が回り込むように

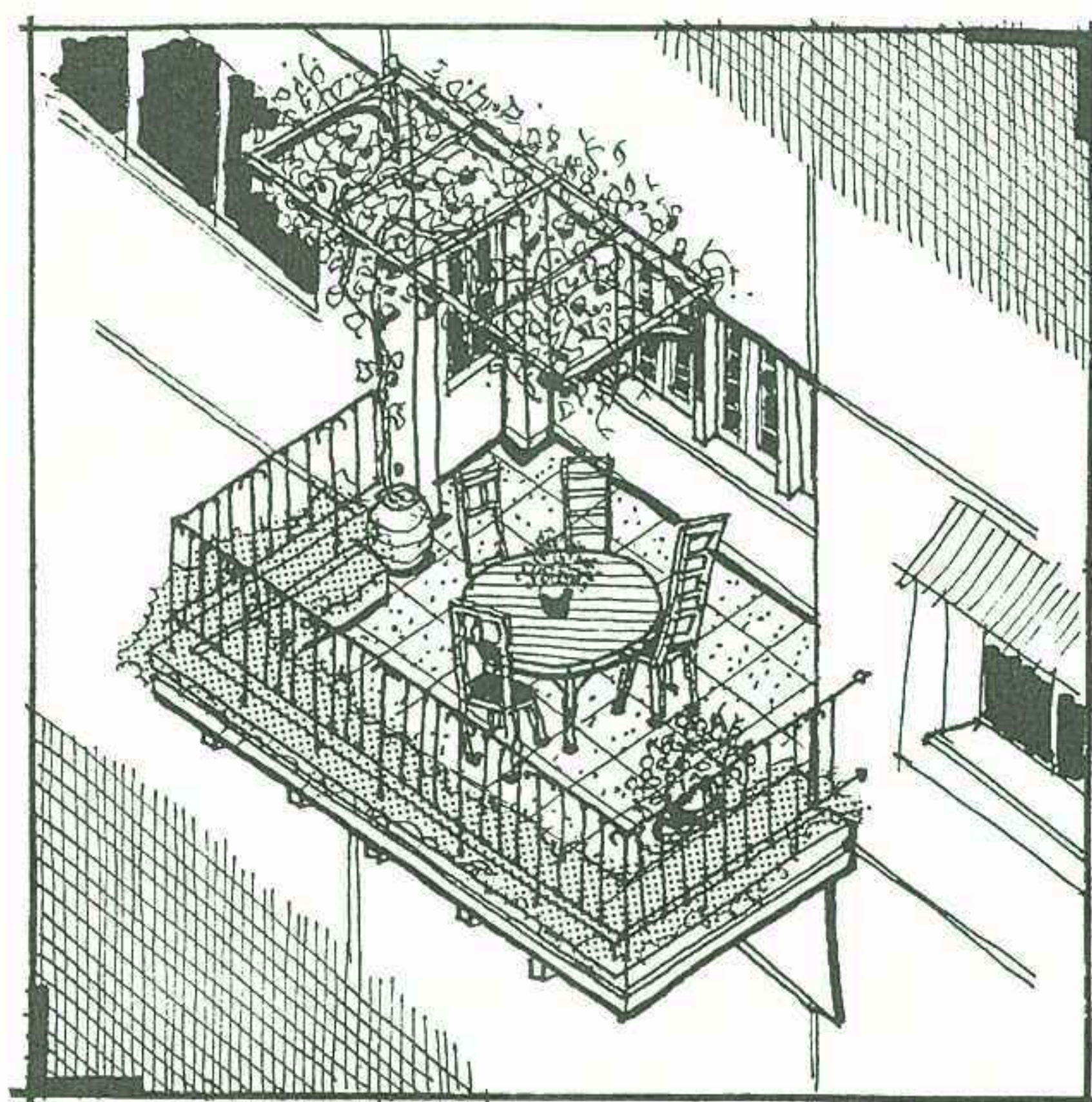
| キーワード                 | 前提条件                               |
|-----------------------|------------------------------------|
| <p>○大きな<br/>バルコニー</p> | <p>奥行90cm程のバルコニーで行える行為はないに等しい。</p> |



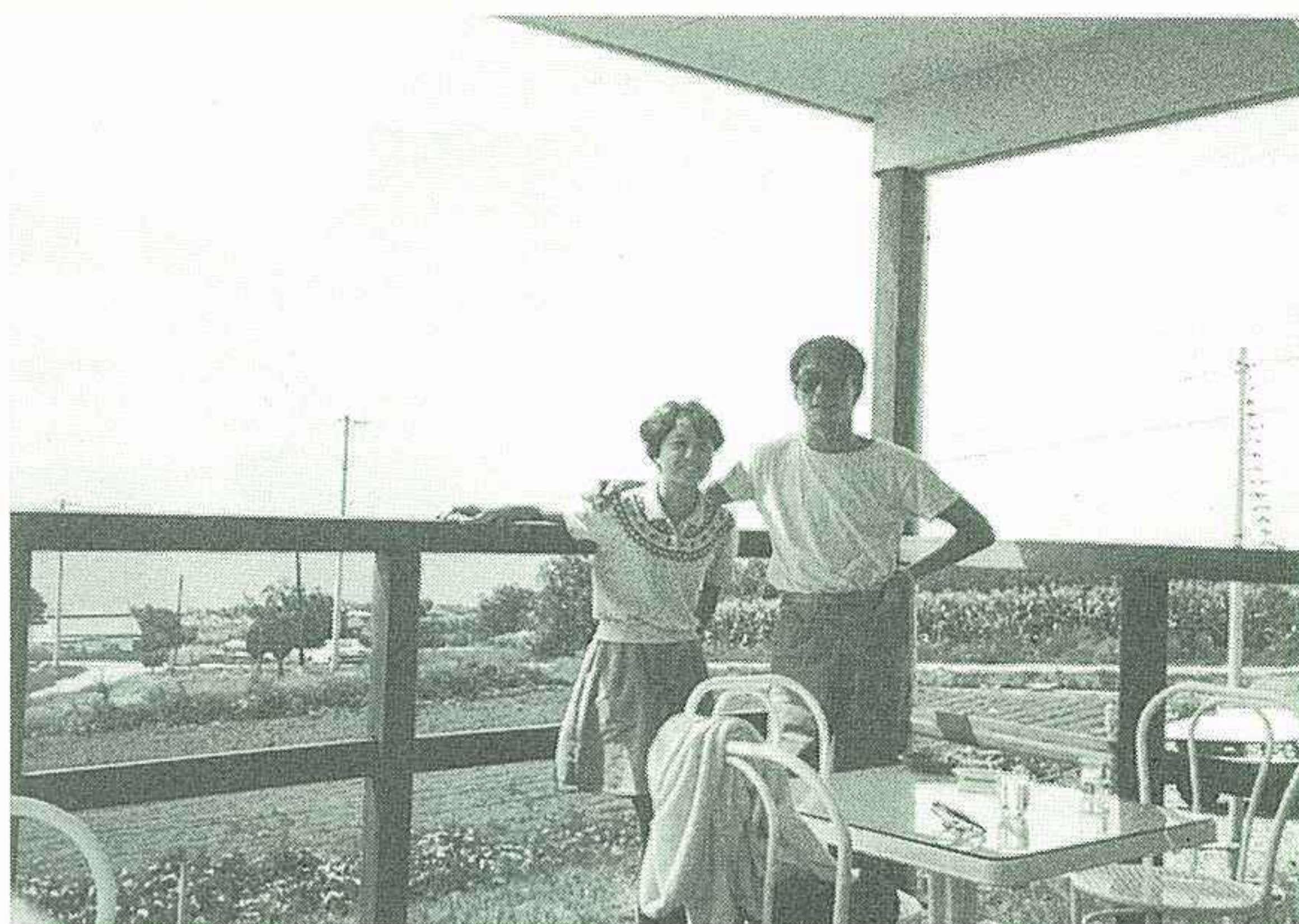
- 何の活動もできない、  
外とのつながりも無い  
バルコニー



大きなバルコニーを造る。  
そうすればバルコニーで屋外の活動、外部での食事、日光浴等、自然とのつながりを持てる。

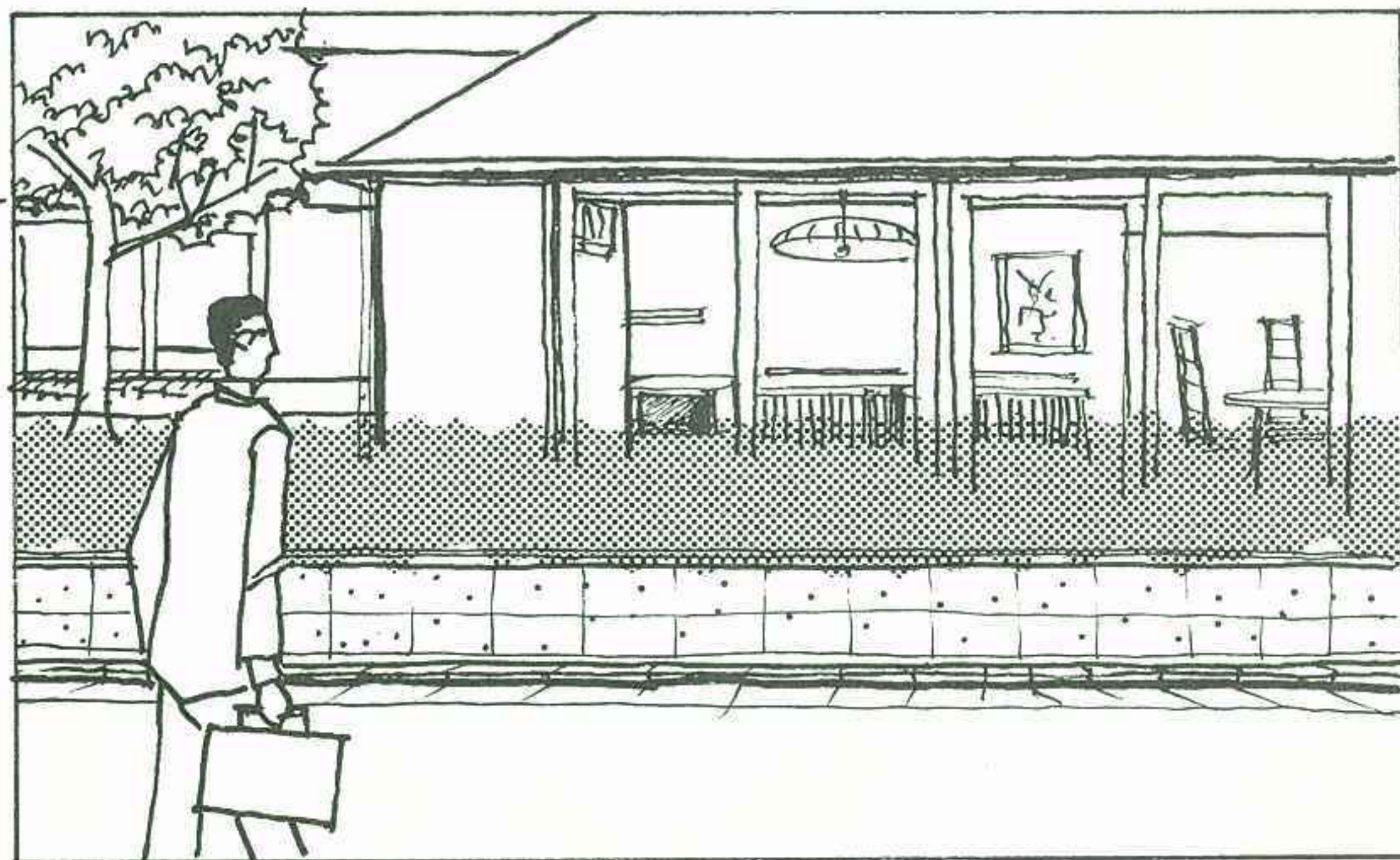


●風景、町、人とつながりを持ちながら食事のできる大きなバルコニー

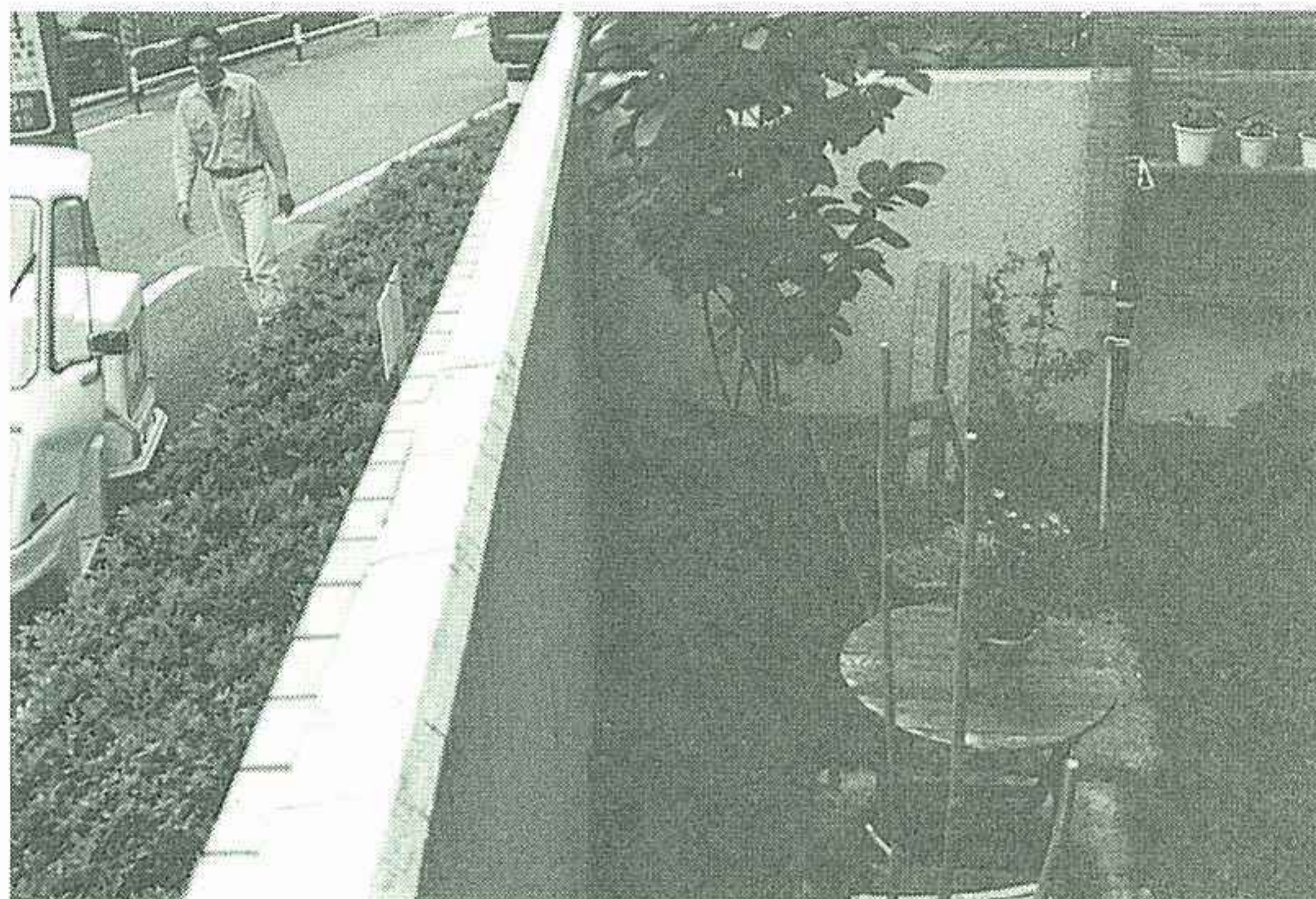


| キーワード          | 前提条件                                                               |
|----------------|--------------------------------------------------------------------|
| <p>○少し見える庭</p> | <p>道路際の庭はあまりにもプライバシーが保たれない。かと言って全く奥に引きこもった庭は誰の目にも留まらずさびしい所となる。</p> |

●家の中まで見えてしまうような……

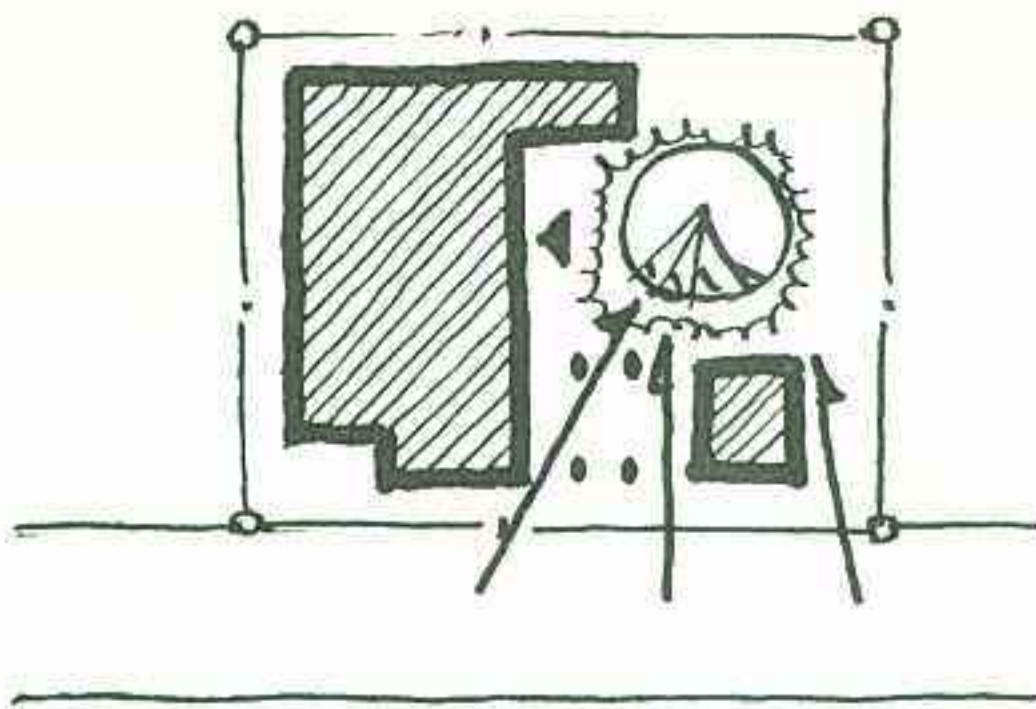


●外から全く見えない

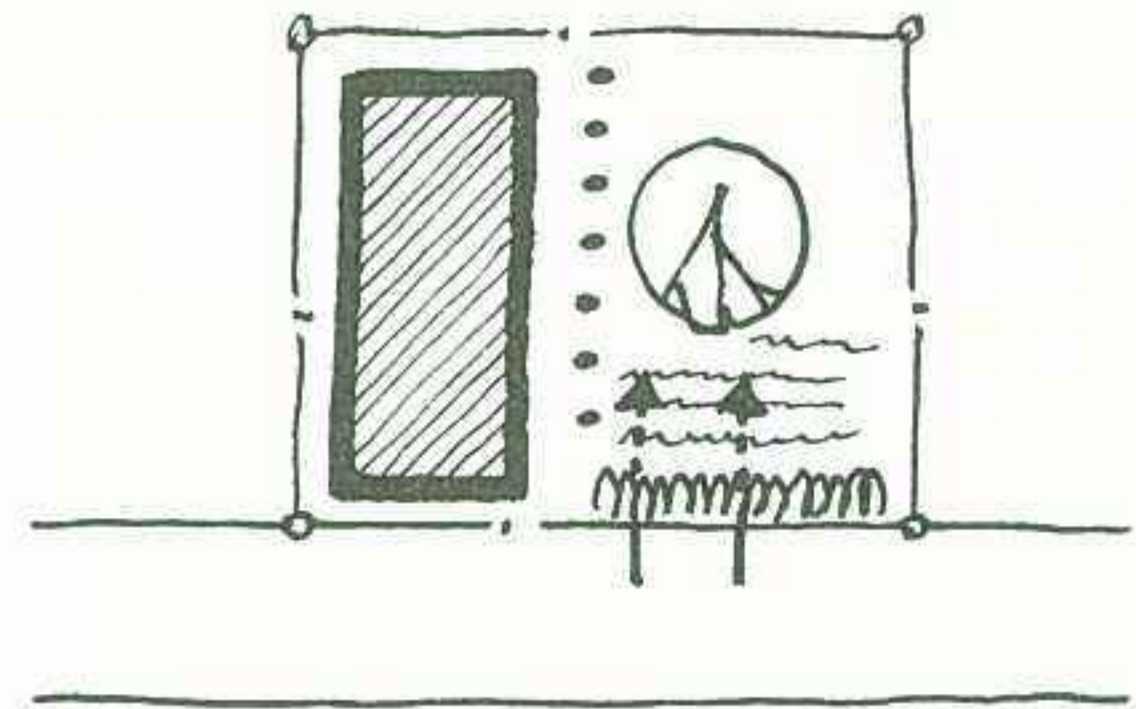


建物の配置に充分注意して庭が外部から少し見えるよう計画すると良い。

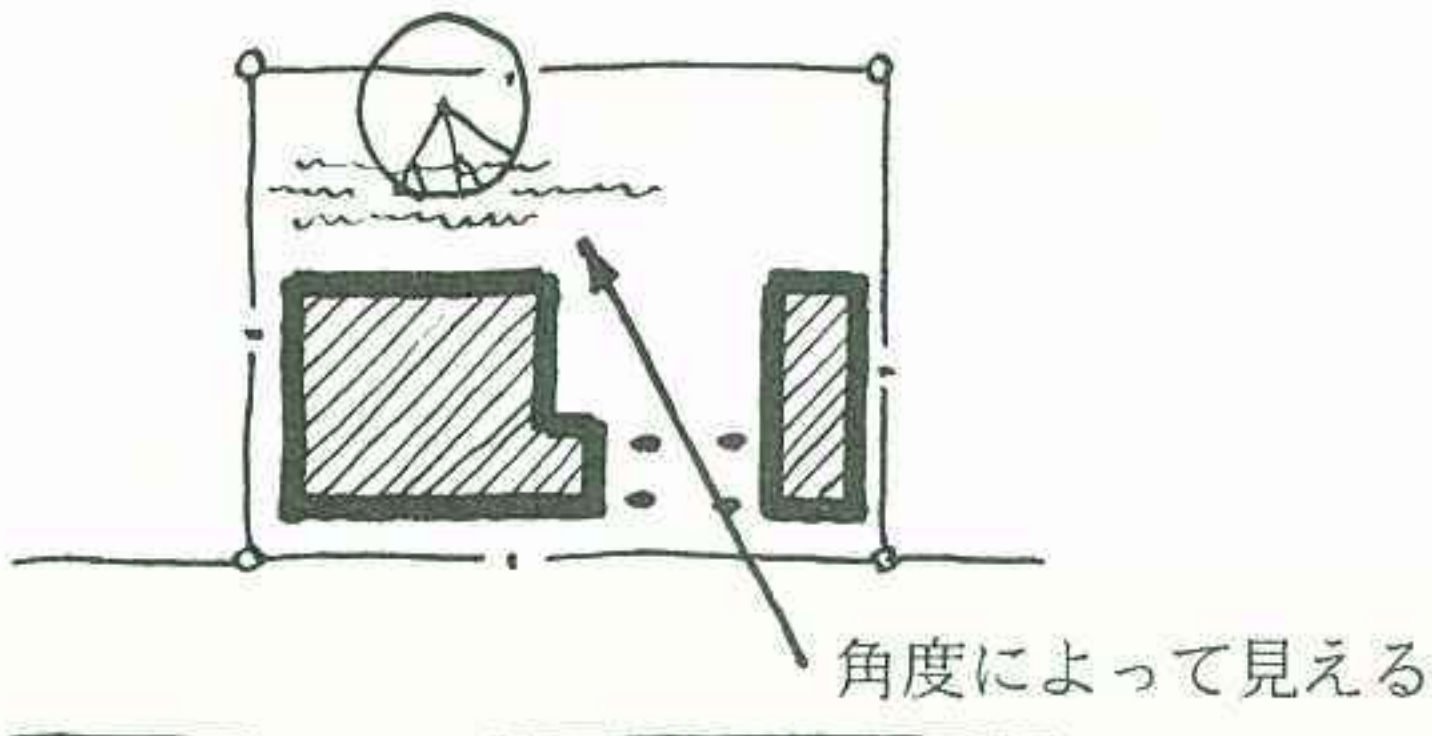
●外からちらちら見える



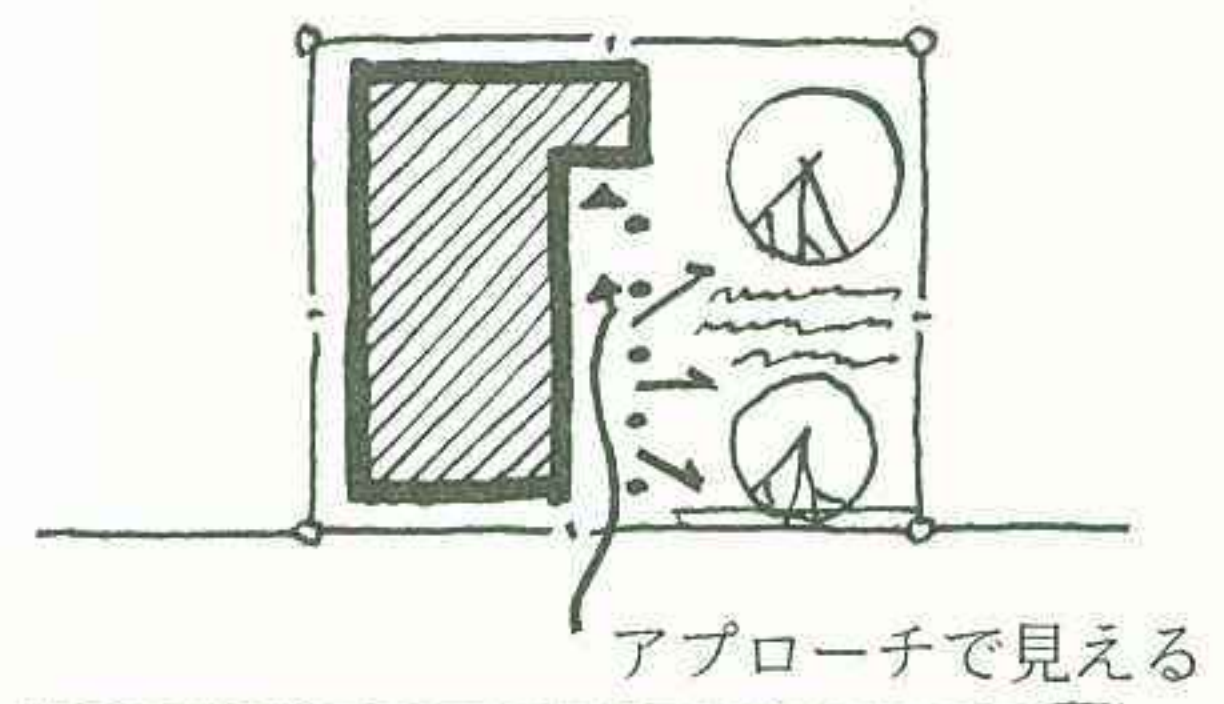
●生け垣などで見え隠れする



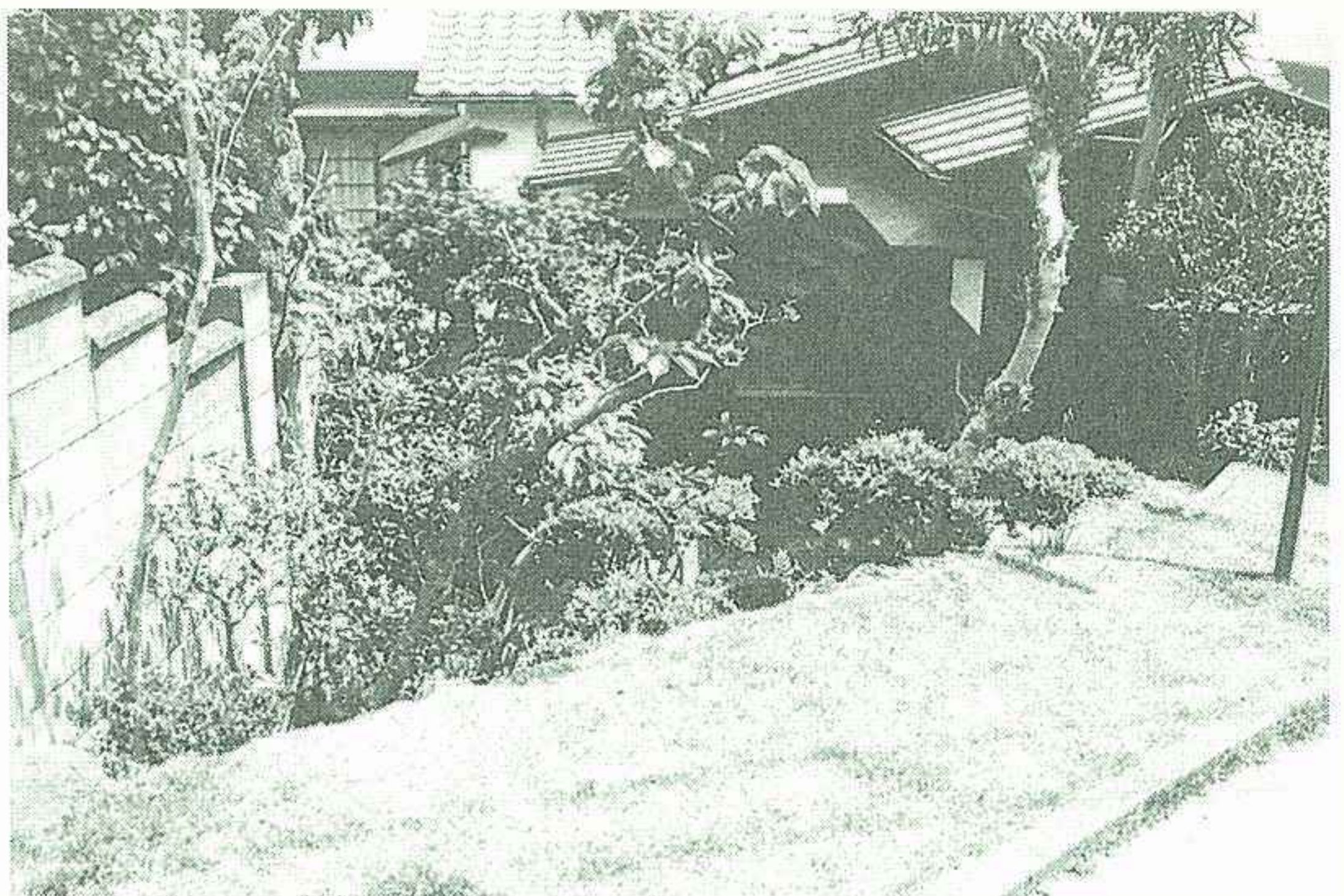
●角度によって一番良い所が見える



●アプローチを進むと見え隠れする



●斜面をうまく利用した  
少し見える庭



# ○ほどよい駐車場

- 車であふれる大駐車場、ビルは非人間的で死んだ建物である。 — それを眺めたり、そばを歩きたいと思う者はいない。同時に運転者にとっては駐車場ビルの入口が目指す建物への正面玄関となる — つまり、外からよく見える必要がある。
- 広大な駐車場は人間の土地をだいなしにする。

- 玄関先のこのような駐車場は乱雑に散らかった下駄箱のように見える

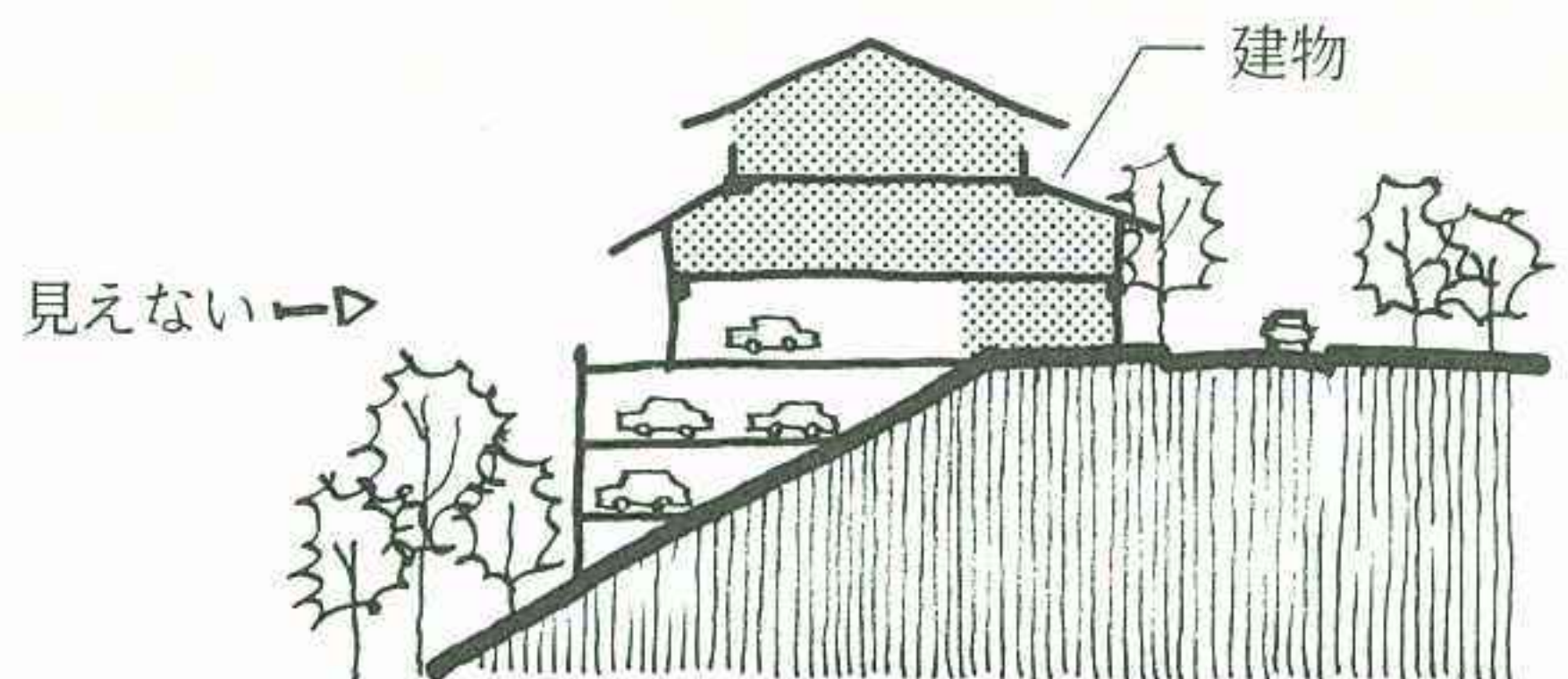


- 斜面の多い真鶴町では、どこからでも車が丸見えになってしまう

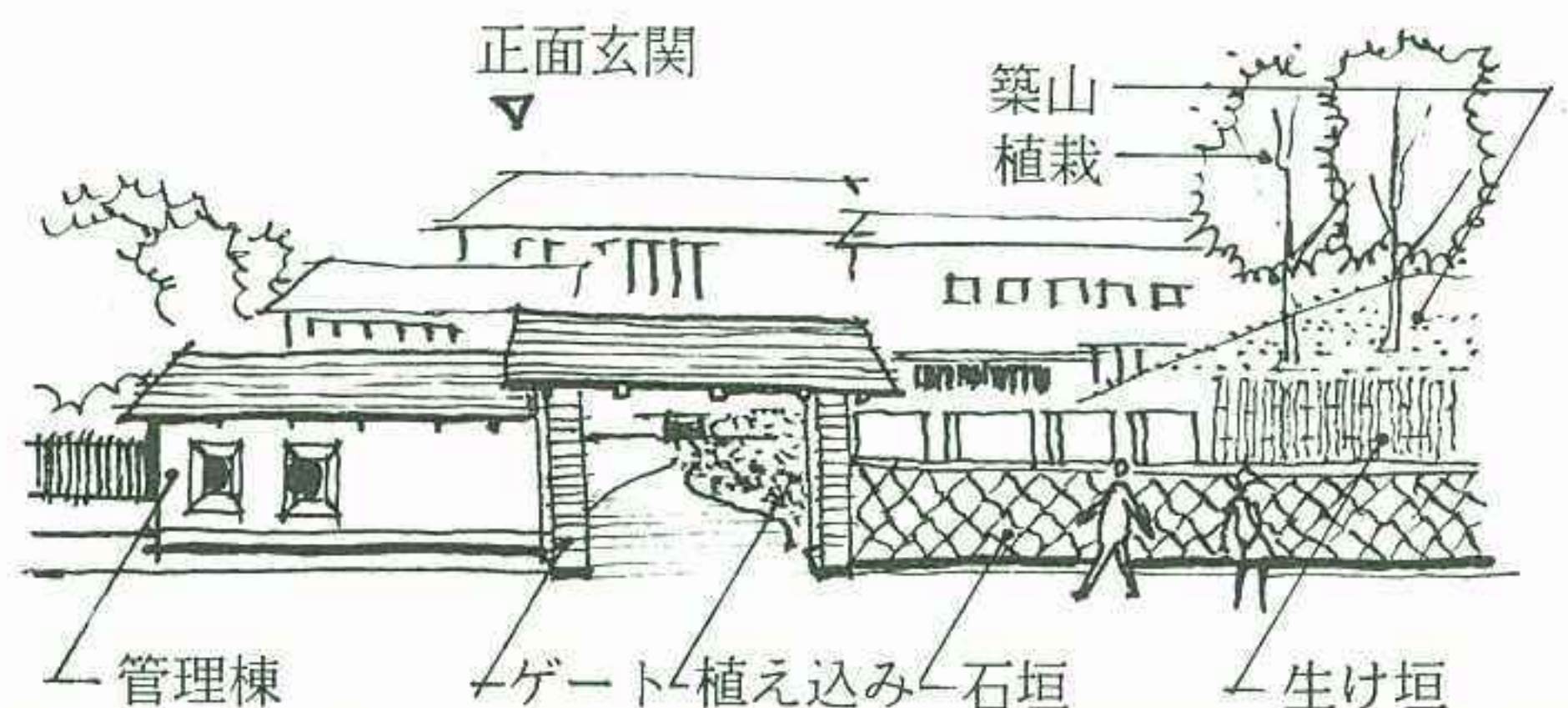


- ・大規模な駐車場は駐車場ビル外部から駐車施設や車が見えないように、必ず何らかの自然の壁で隠すこと。車を取り囲む壁は建物、連続住宅、盛り土、店舗、植栽等、駐車場への入口があたりの建物への自然な門口になるようにすること。また建物の正面玄関が容易に見える位置に駐車場入口を設けること。
- ・その他の駐車場の規模は5～7台以下にすること。それぞれを庭囲い、生け垣、斜面、樹木、棚等で囲い外部から車が見えないようにすること。

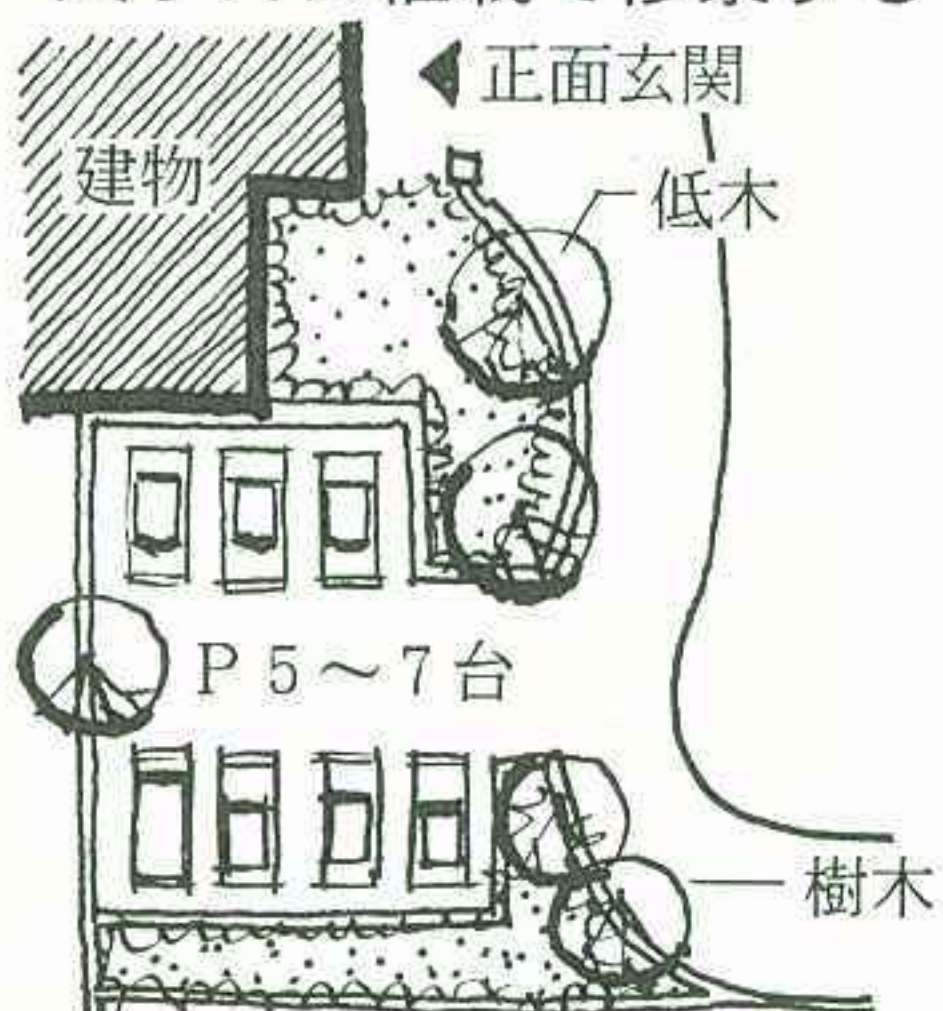
●斜面を利用した見えない駐車場  
谷側は植栽で修景する



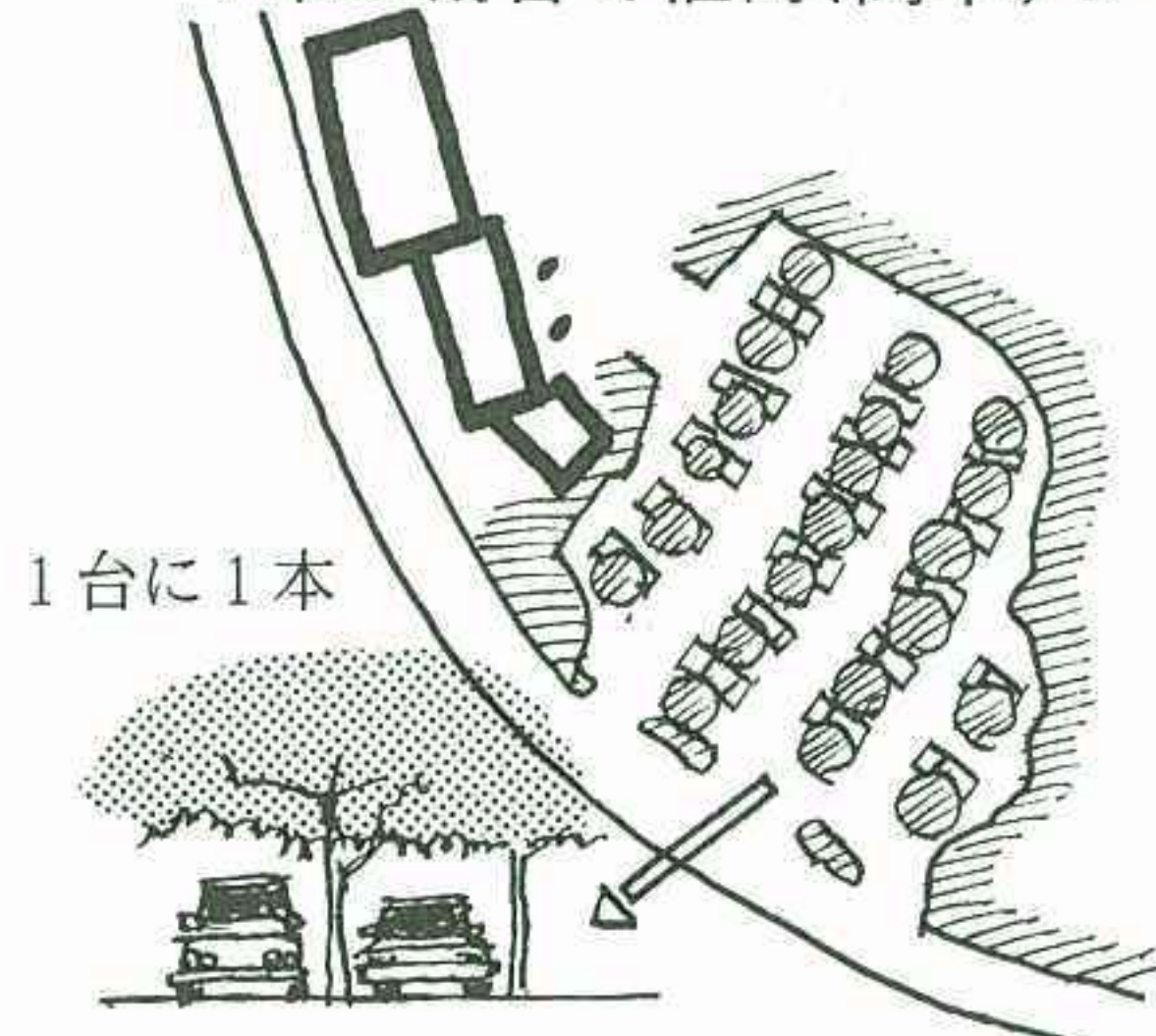
●いろいろな部品で構成される  
見えない駐車場



●5～7台の小さな駐車場  
入り口は植栽で修景する



●大規模な駐車場は1台に  
1本の割合で植樹(高木)する



●建物と植栽でうまく囲った  
駐車場

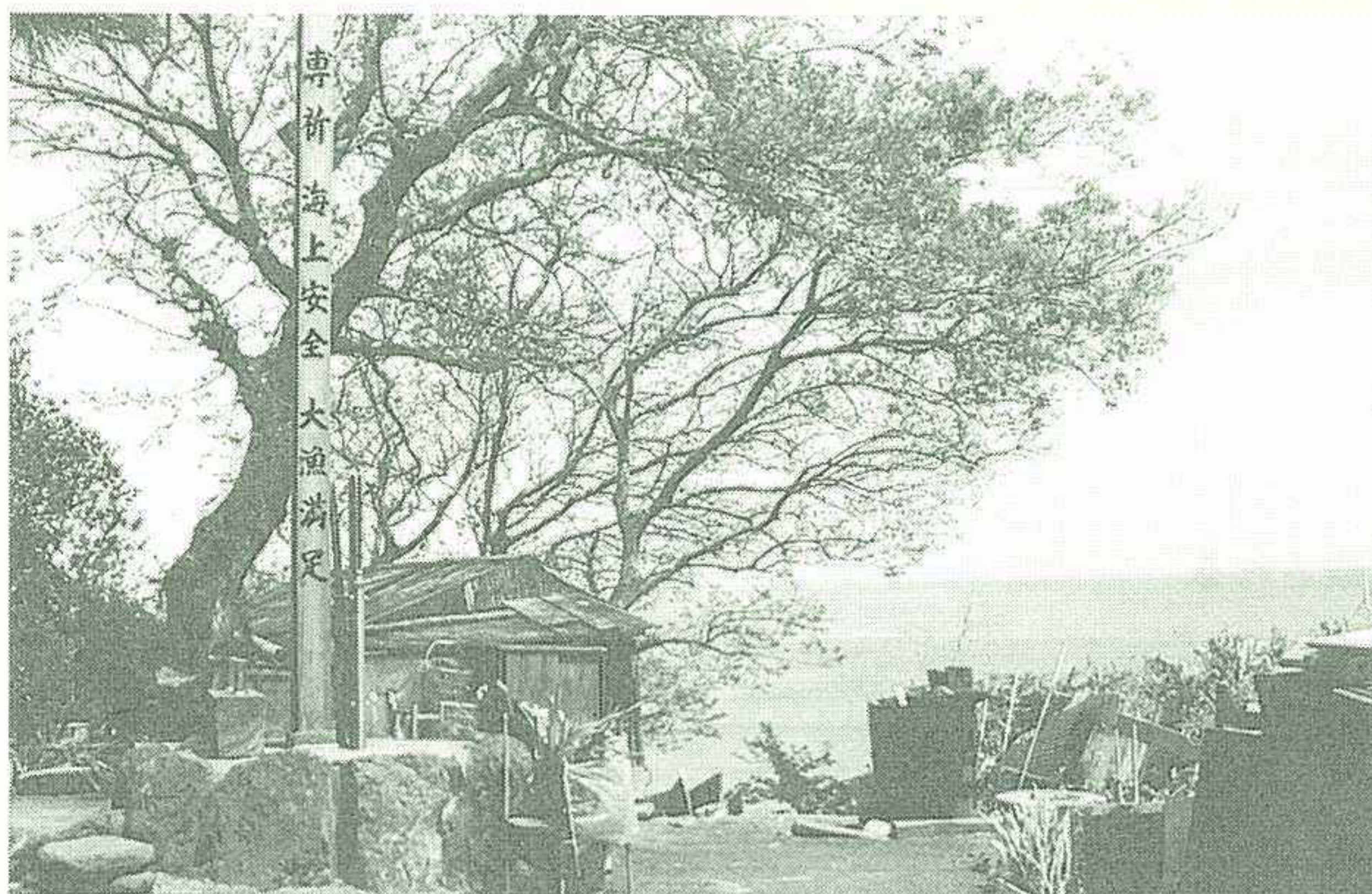


## ○木々の印象

「豊かな植生」をもつ真鶴町では、建築行為に木々の緑を取り込むことは重要なことであるが、建築物とかかわりをもつ場所においては特段の配慮が必要とされる。木々が生み出す空間の質は、景観や建築を自然とつなげ、それらをその場所に違和感のないものとする力をもっている。

新たに植栽を施す場合、これらの事柄の正しい認識は最も重要な事項である。

### ●海を見下ろす丘の上の木、海の船から見える場所性を持っている

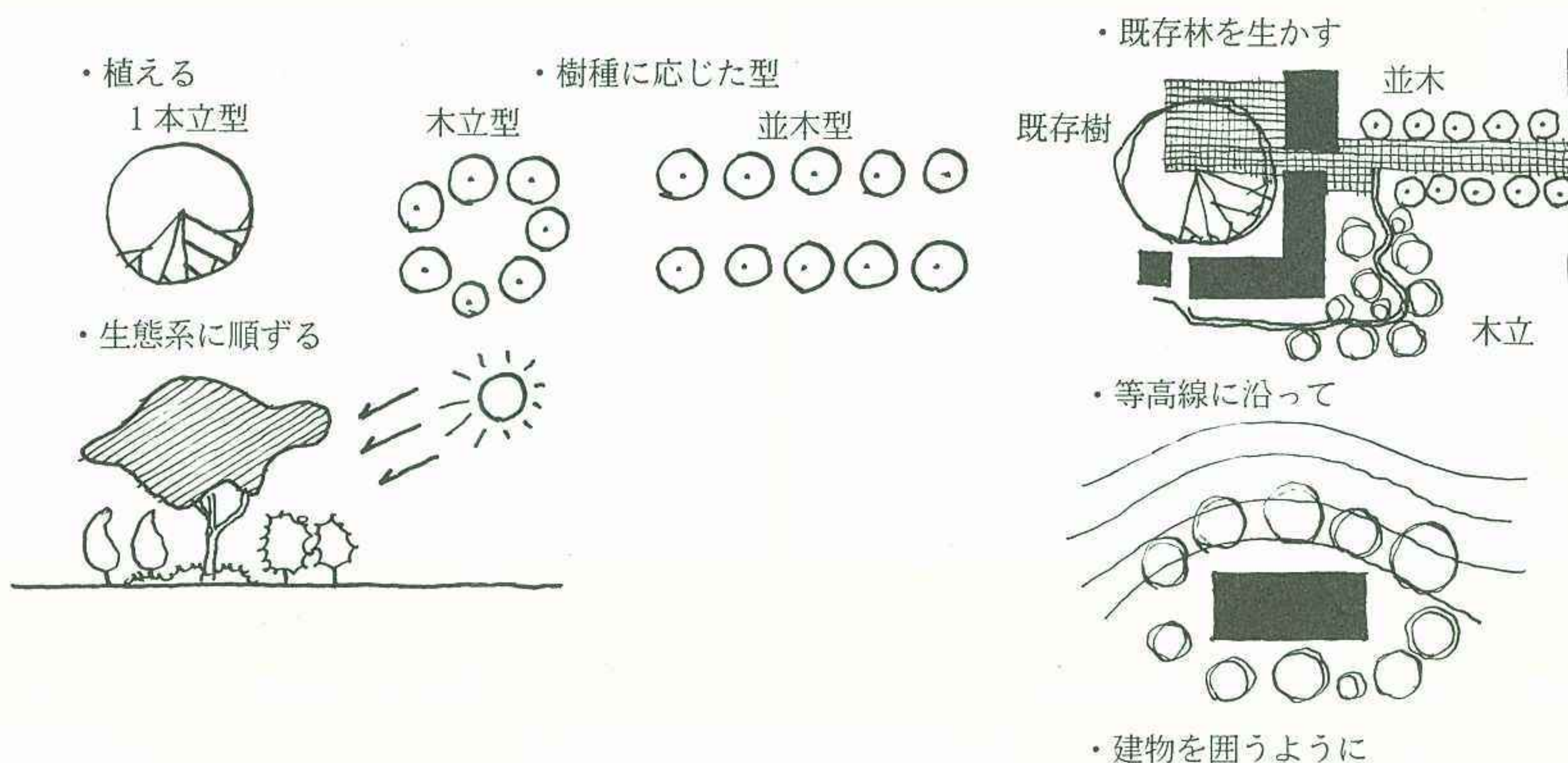


### ●御林の椎の木、この木々が集まって御林と言う大きな場所になる



植樹の計画があれば、樹木の性質と地味に応じて囲い、並木、広場、木立、オープンスペースの中心に枝を広げる1本立などを形成するように植えること。近くの建物は樹木に応じて形づくること。そうすれば、樹木そのものが、あるいは樹木と建物が一体になり人々の使える場所を形成する。

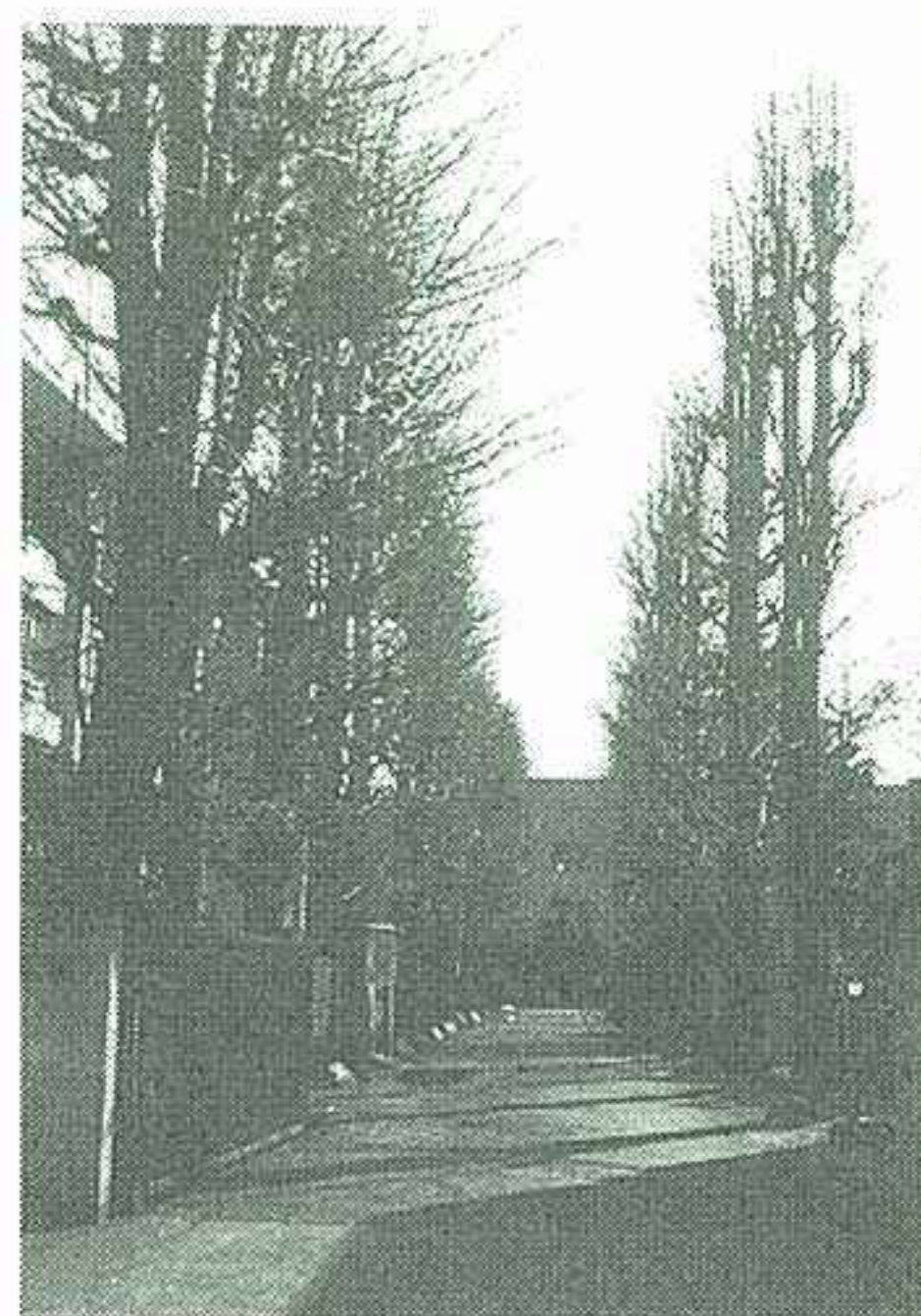
●木々の印象を決定する様々な方法



●一本立ちの木を囲むベンチ



●並木



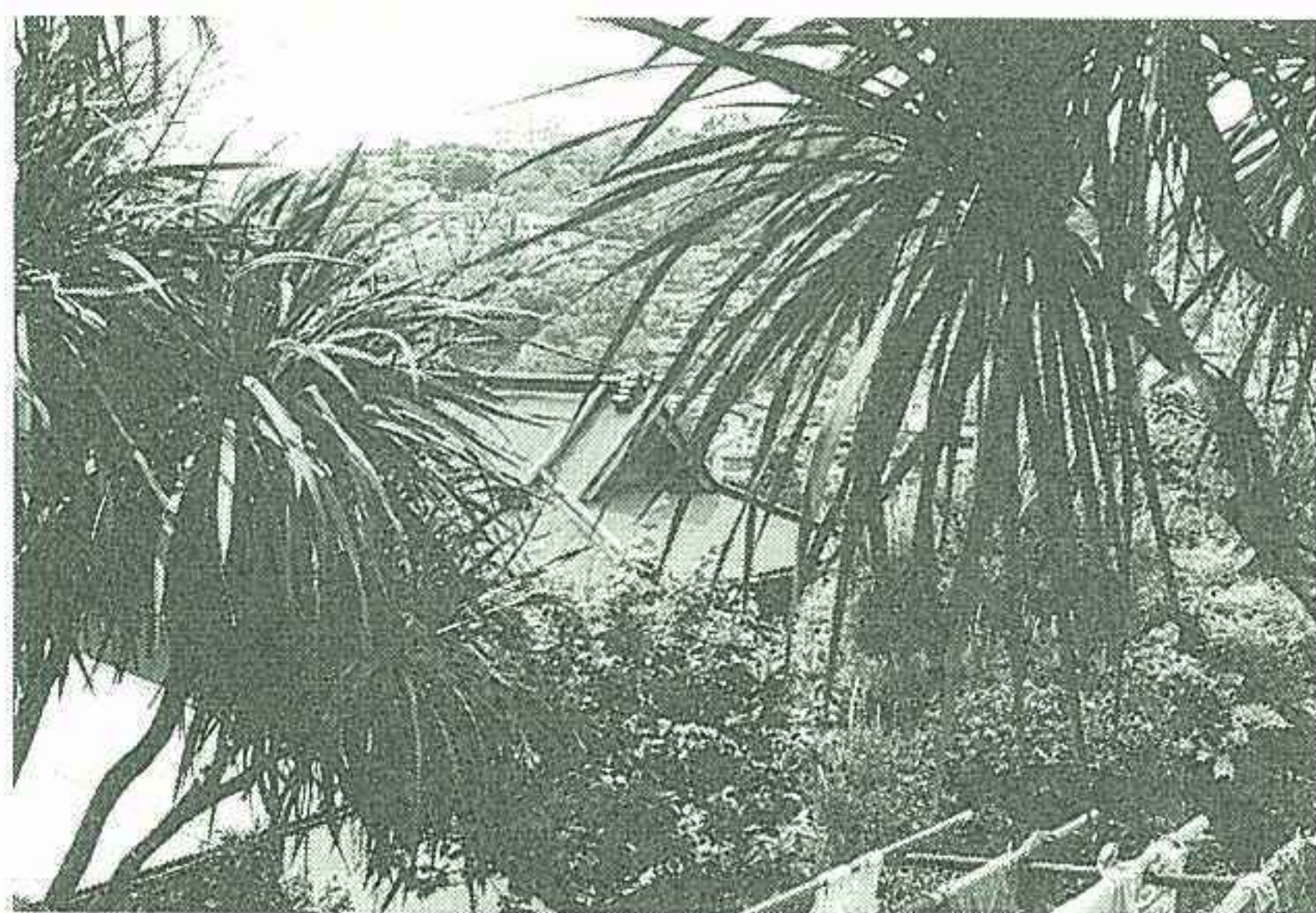
キーワード

前提条件

真鶴町では真鶴半島らしいエキゾチックな植物が多く見られるが、これらは年々少なくなっている。

## ○地場植物

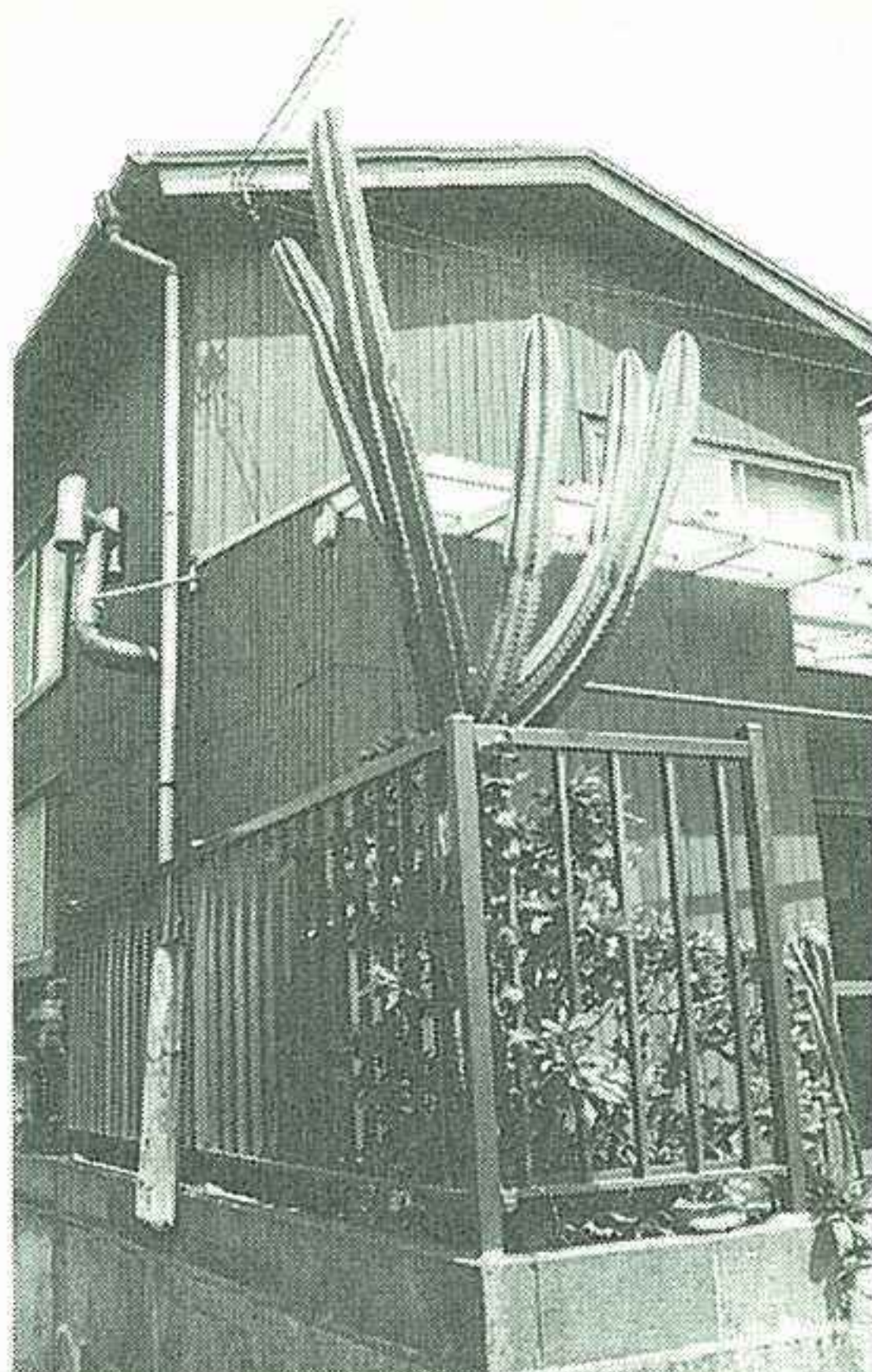
### ●温暖の地ならではの植物



### ●なつかしい草



### ●ありふれた植物こそ地場のもの

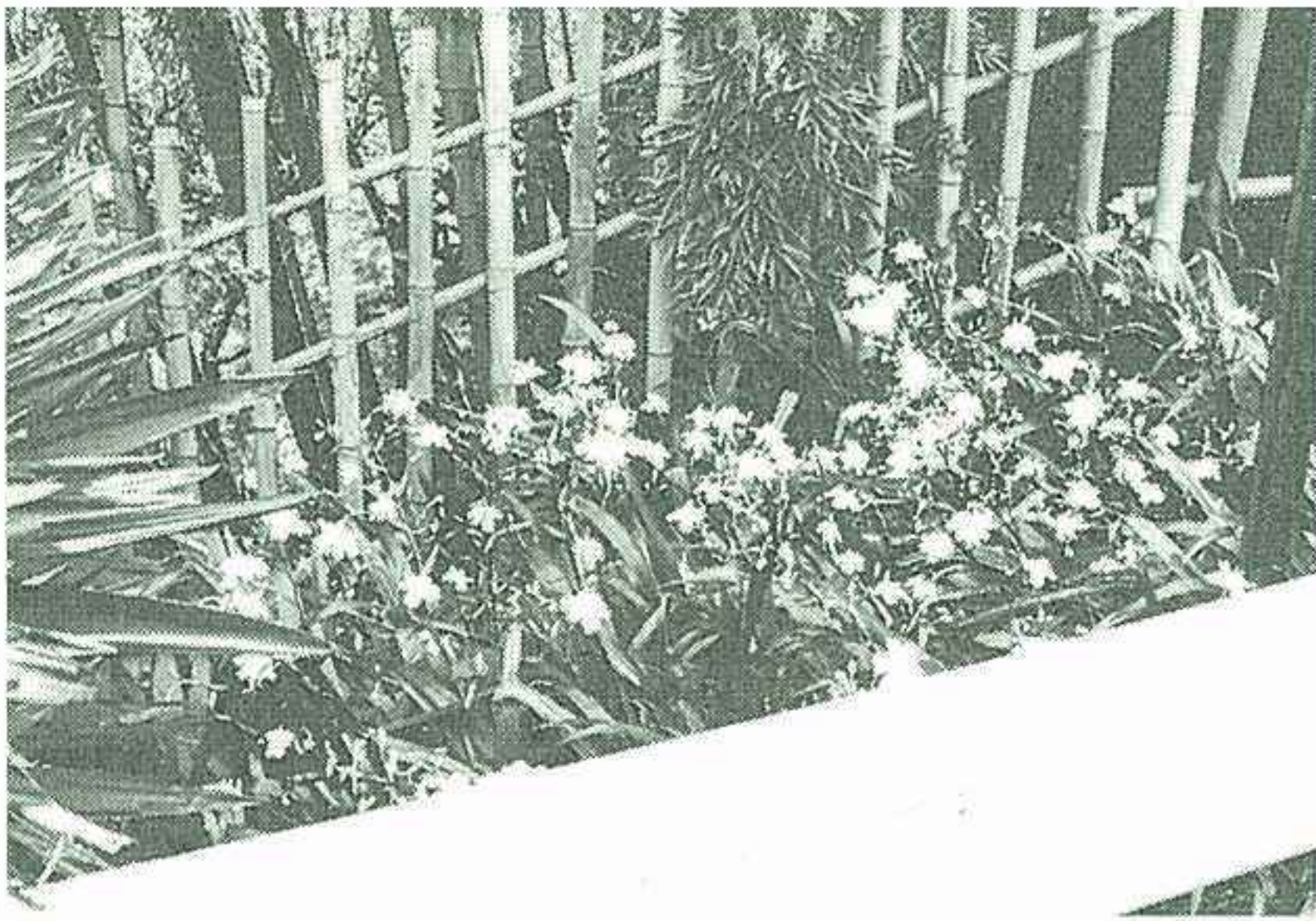


### ●守るべき種



| 解 決 法                                                      | 課 題              |
|------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>地場植物を見直し、積極的に植えていくこと。<br/>街路に面する部分などは特に町の独自性を演出できる。</p> | <p>・地場植物の解説書</p> |

### ●野生のラン



### ●本来の植生

#### 真鶴の植物

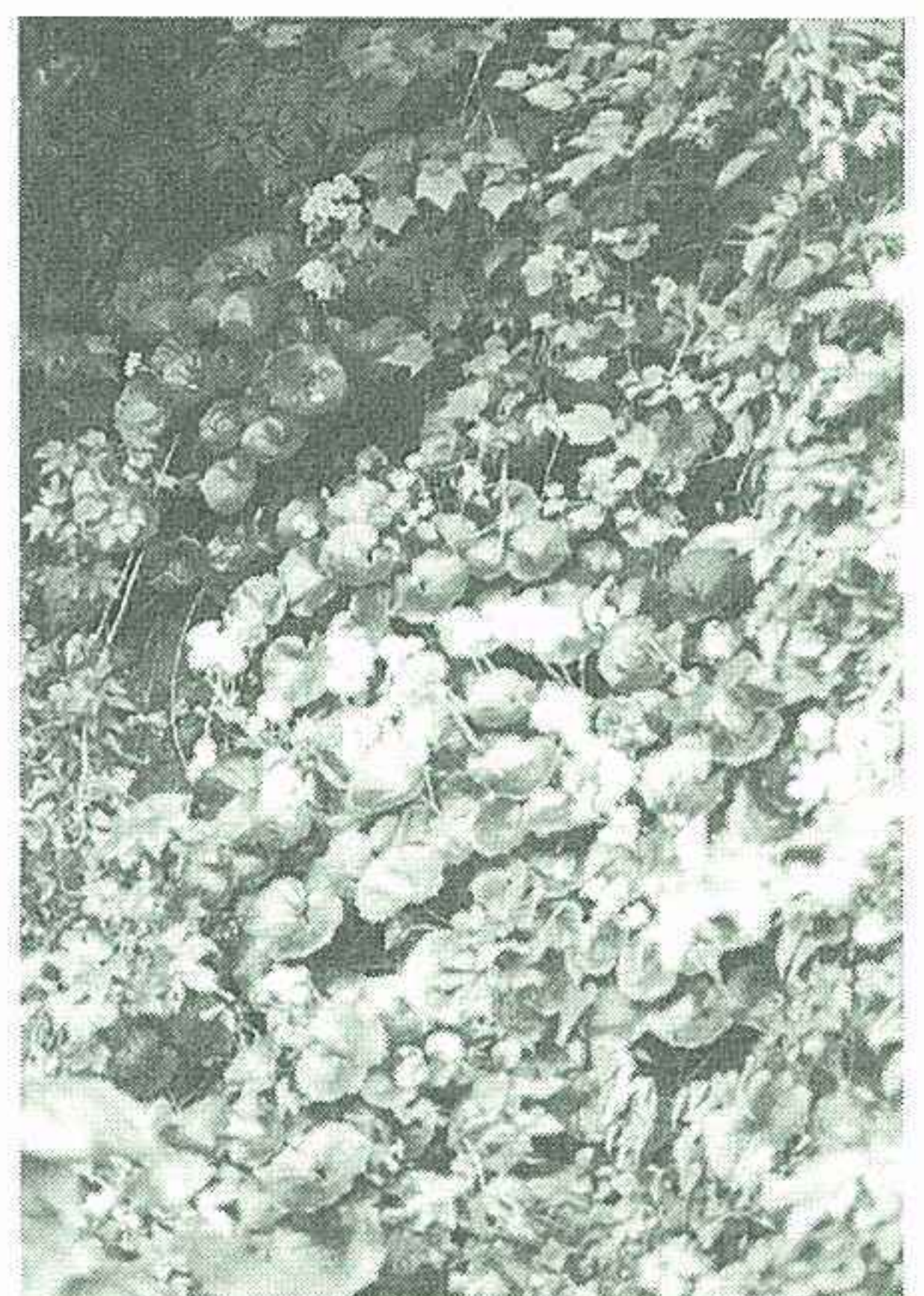
(神奈川県真鶴町自然公園)

日本は、歴史ある自然文化園と云われています。真鶴町の日本にも昔は常緑広葉樹で覆われていました。しかし人間が生活するようになり、食物の生産や加工が必要になりました。そのために森林を伐採し薪炭材や飼料用や畑や家畜の建設など長い間森林を破壊し続けてきました。今昔からの自然の森林を復元することは大変難しくなっています。真鶴町には自然保護区、即ち常緑広葉樹林の自然公園を有しています。森林の中のクヌギ、クロマツは江戸時代に植えられた人工林です。クヌギは樹皮を産したり、木材加工の材料にされました。クロマツは薪炭材、船材として利用されていきました。現在は、ここにクヌギ、クロマツの苗木を育て、手近な緑しみやすい環境が整えられています。

#### 真鶴の主な植物

**高木** スダシ、クヌギ、クロマツ  
**亜高木(中くらいの木)** シロダモ、ヤブニッケイ、ダブキ、イヌビロ、ヤマハゼ、カラスシロヨロイ、アカメカシワ  
**低木** アオキ、ヒサカキ、ヤツデ、ヒメユスリハ、ハコネツギ、トヘラ、ヤブムササキ、ヤブコウソウ、アズマキササ  
**草本(草やつる)** ホウチャクソウ、シヤノヒゲ、チヂミザサ、キチヨウソウ、ホシダ、ツツキ、キヌタ、オオイトシダ、テイカササ、ナツツク、フクロウカササ、アリトウシ、フユイモコなど

### ●イメージの中の植生 (どう扱うか?)



キーワード

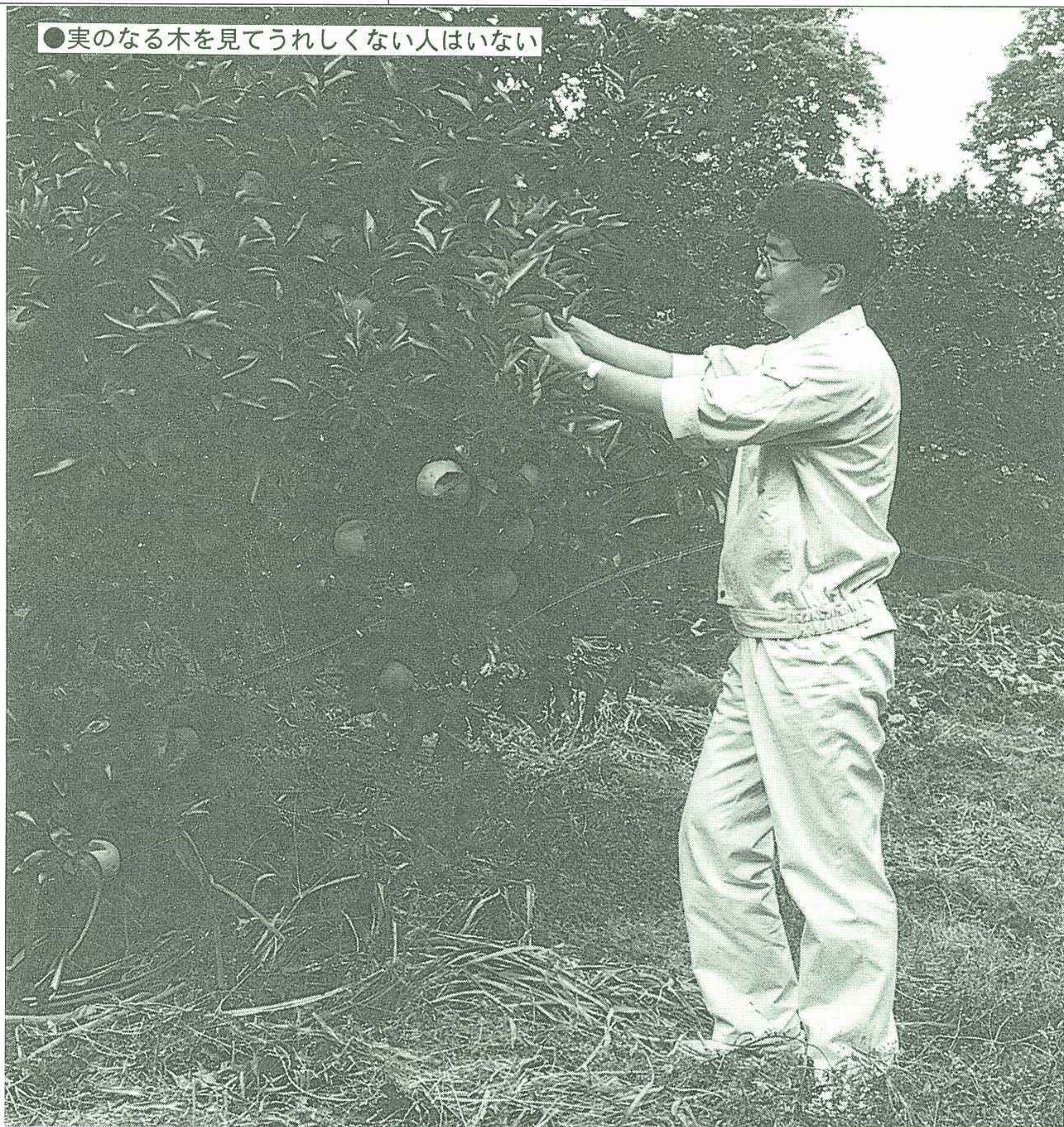
前提条件

## ○実のなる木

実のなる木は大地のはぐくみをあらわす豊かな象徴である。

真鶴町では、みかんがその代表である。昔からの庭木である柿、ビワなどの姿もずいぶんと見られなくなってきた。

●実のなる木を見てうれしくない人はいない



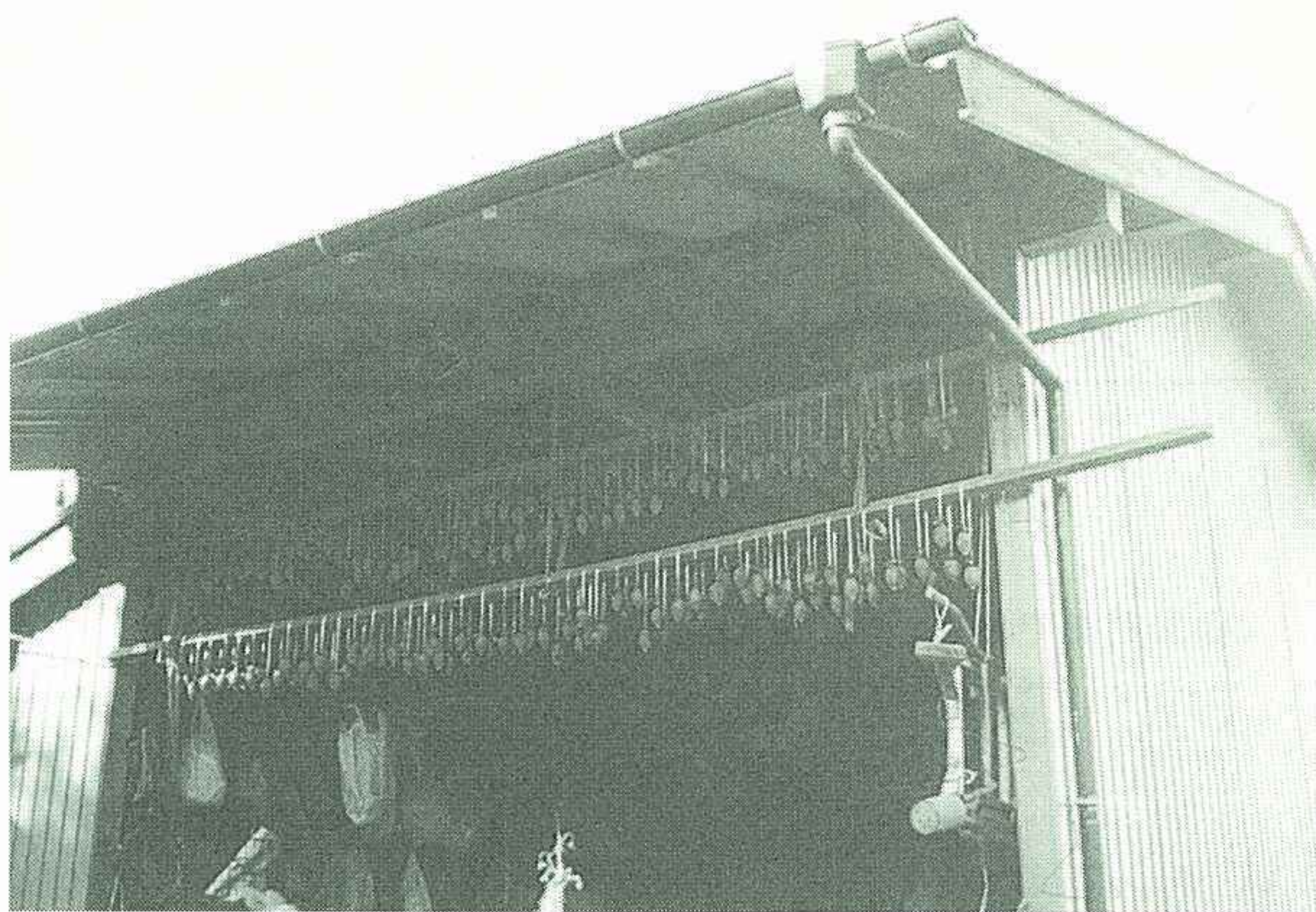
## 解 決 法

## 課 題

町は農業として果樹園を積極的に保護していくこと。また、建築に関する公開空地、小公園等でもできるだけ実のなる木を植えるようにし、住民の手で管理、収穫できるようにすること。

新しい建物の庭には、必ず実のなる木を植えると良い。

- 干し柿は実のなる木  
人の生活をも想像させる



- 実のなる木の花はまた、甘い香りまでもふりまいて、人を幸せにする

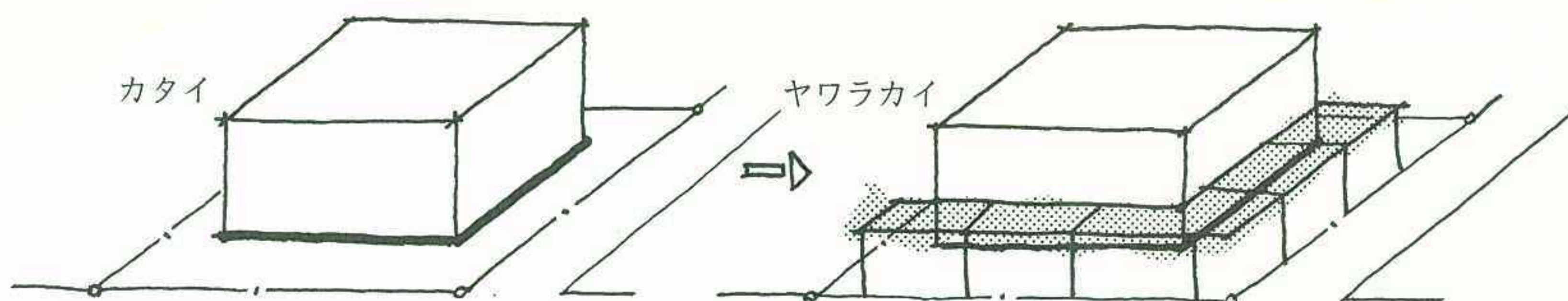


- 食べる所の少ないビワの実、いっそう甘く感じる



| キーワード          | 前提条件                                    |
|----------------|-----------------------------------------|
| <p>○格子棚の植物</p> | <p>格子棚の独特な雰囲気は誰もが楽しいと感じられるものの一つである。</p> |

- 格子棚の植物は、建物の縁を公共に柔らかくつなげる

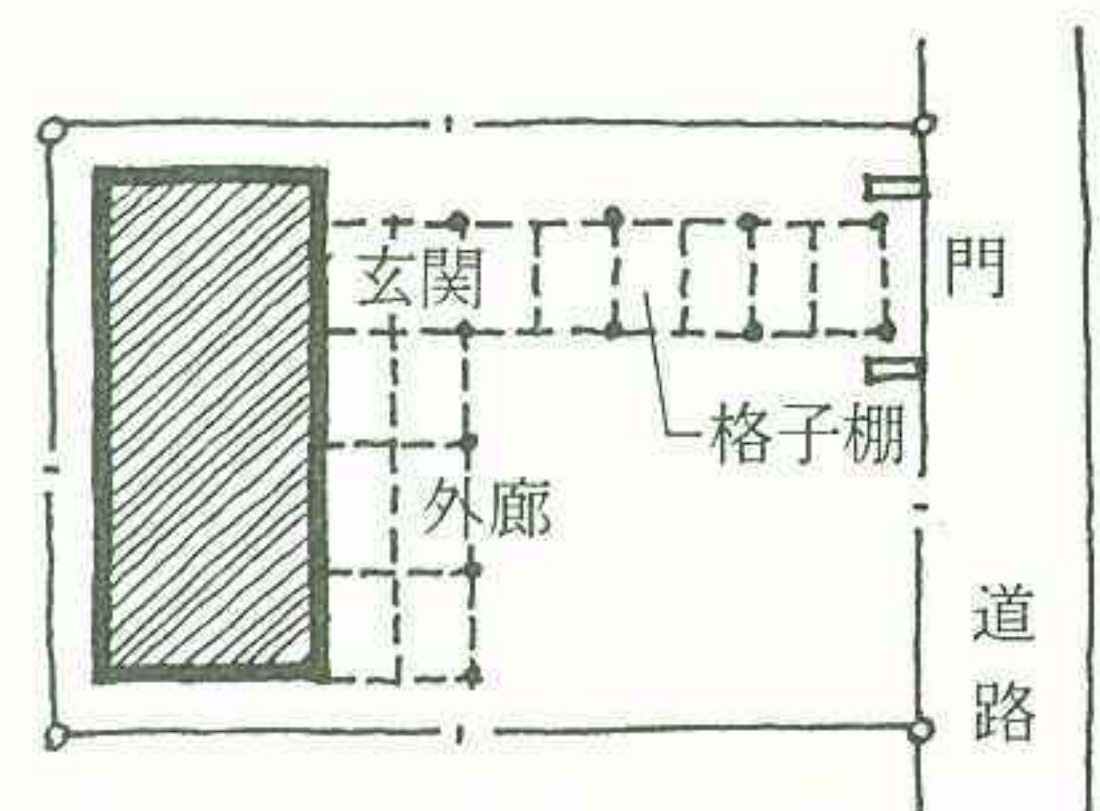
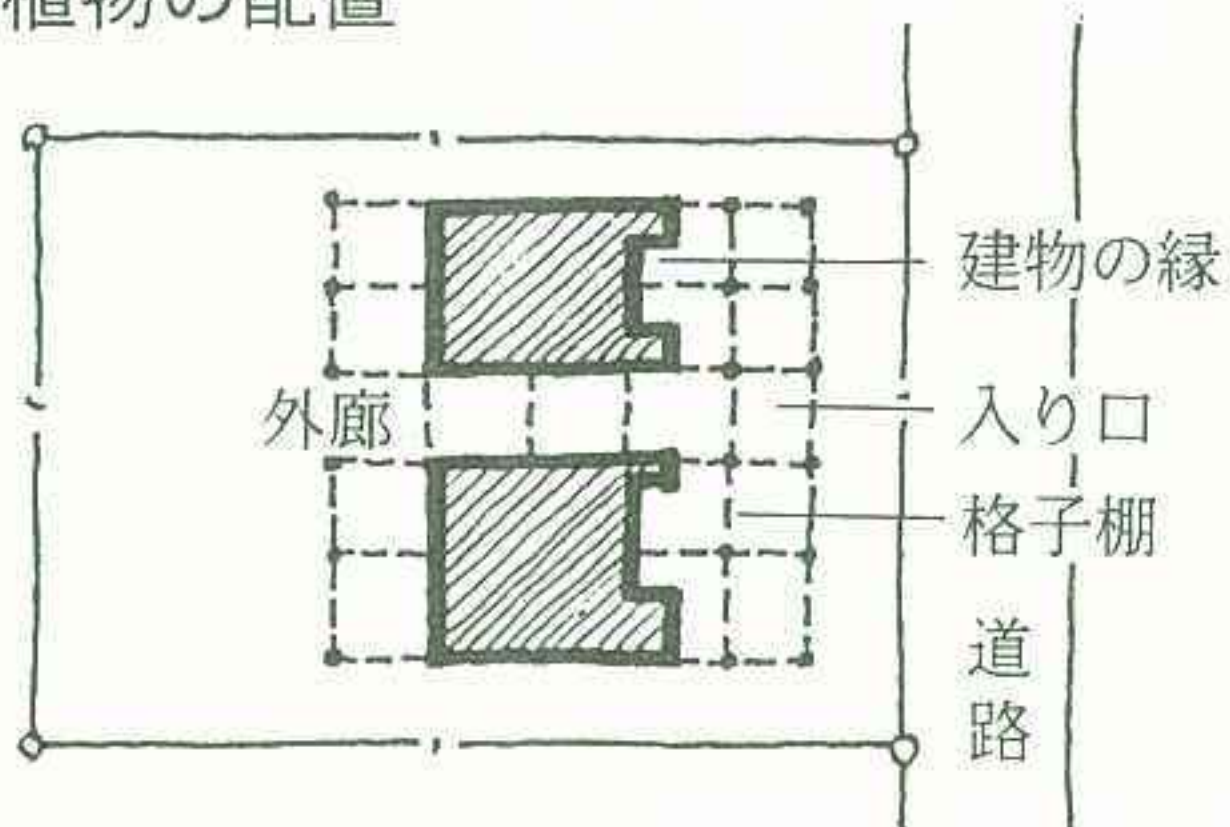


- 玄関までの格子棚、思わずくぐり抜けたくなる



建物の縁、回廊、玄関から門への歩行路等に格子棚の散歩道を設けること、そこが外部とつながる様に計画すること。

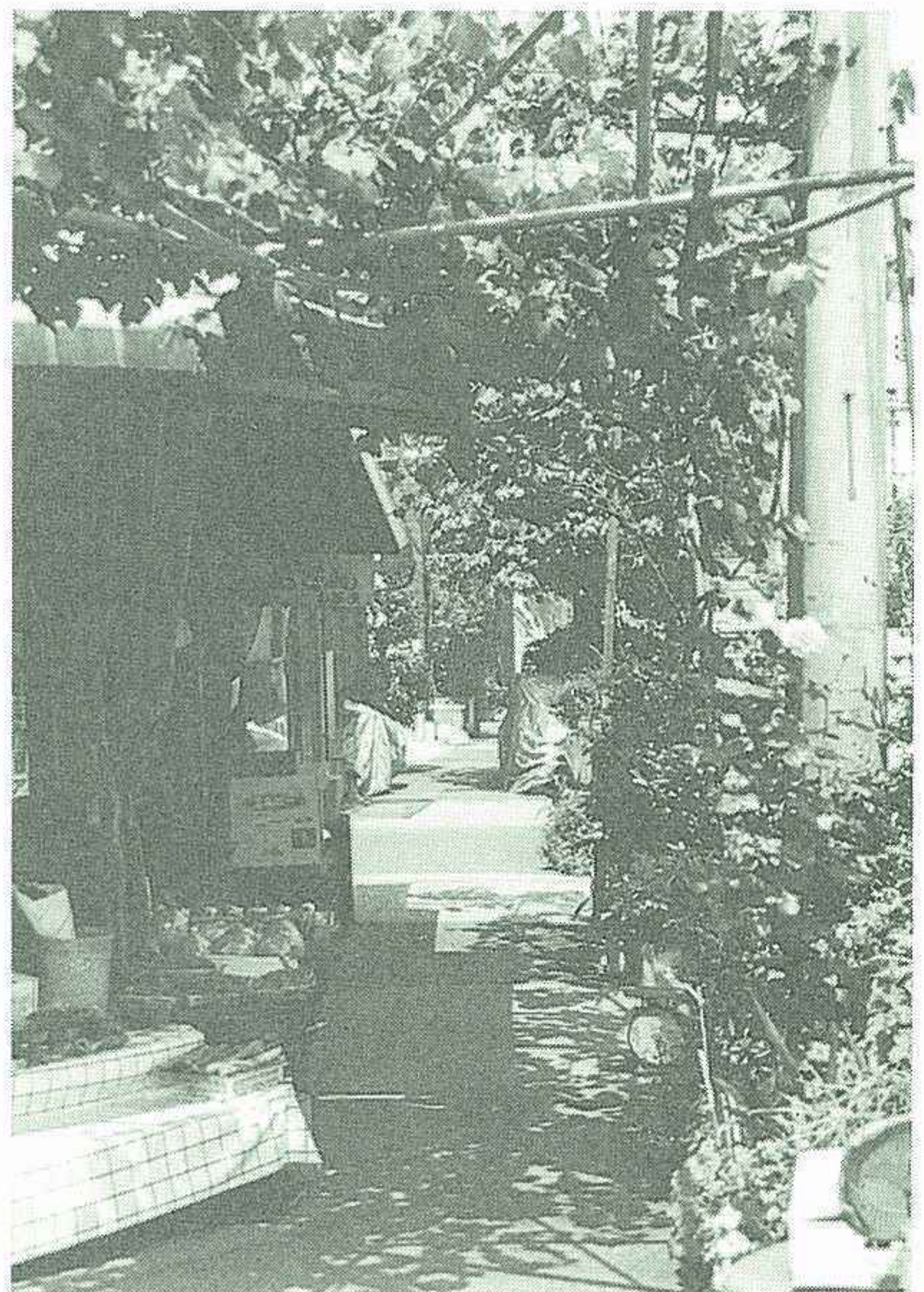
●格子棚の植物の配置



●空との境目に緑のレースのように広がる



●道に覆いかぶさる格子棚の植物



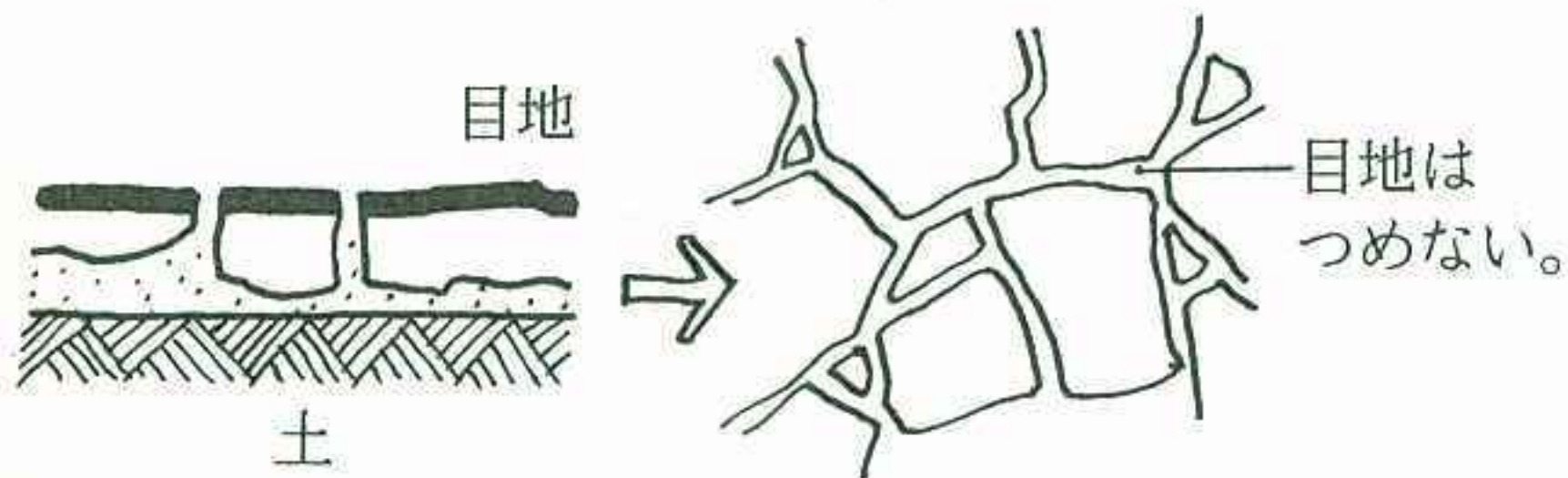
| キーワード          | 前提条件                                |
|----------------|-------------------------------------|
| <p>○歩行路の生態</p> | <p>堅いタイルやコンクリートの歩行路は誰のためにもならない。</p> |

- 堅いタイルで覆い尽くしてしまった歩行空間、大地の生態系は全く絶えてしまっている。



歩行路のテラスには、舗石のあいだに小さな草花やこけが育つように、2～3 cmほどのすき間をあけて舗石を敷くこと。下地モルタルはやめ、地面にじかに舗石を置くこと。もちろん、目地にはセメントやモルタルをつめてはいけない。  
舗石自体として一次的材料（小松石）を選ぶようにしたい。

- 歩行路部分の石ばりはコンクリートを打たないこと



- 金城石畳、文化財に指定されるほど見事にできた生態系
- 真鶴町郷土資料館の歩行路の生態系  
石、植物が見事に調和している

